

2024 年度 相愛高等学校 2 年 音楽科 シラバス

教科	宗教	科目	宗教	単位数	1	選択等	必修
教科書	『見真』（本願寺出版社）						
副教材等	『日々の糧』 『聖典聖歌』						

1 学習の到達目標

仏教を開かれた釈尊の生涯、並びに仏教の基本的な教えを学び、自分自身を内観し、より充実した生き方の探究に繋げることを目標とする。授業の冒頭では「日々の糧」の言葉について考えを深めながら、他に対するおかげさまの心（感謝）や責任感を身につけ、心豊かな宗教的情操と主体的に生きる力を育む。

2 学年の宗教では、釈尊の生涯・仏教の誕生・教え・歴史の変遷を学ぶ。インドで興った仏教がどのような経緯でアジアに伝わり、日本に伝わったのかを学ぶ。また、仏教の諸宗派についてもふれる。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

仏教の基本は「縁起観」です。すべての事象は関係性によって、今、仮に成り立ち、それは刻々と変化し続けています。「私」もまたその事象の一つ。仏教のものの見方を学び、それを基に、皆さんが主体的に考え、物事に取り組んでいくことは自身の充実した人生に繋がります。今していることは未来に繋がっています。自分を信じて努力する心を養ってみてください。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	釈尊の生涯、教えを正しく理解し、教えがどのように伝わっていくのか、その背景を正しく理解できているか。また、知識として理解を深めるだけでなく、理解を深めて人間性を養うことに繋がっているか。	釈尊の教えがインドから日本に伝わる歴史的な背景について関心を持ち、主体的に取り組む姿勢がみられるか。	仏教の学びを通じ、生活や社会、人間関係をよりよく構築するために、自主的に自己の役割や責任を果たし、多様な他者と協働して実践しようとしている。
評 価 方 法	定期考査	パフォーマンス課題 発問への対応 感想文等の取り組み	パフォーマンス課題 学習状況 発問への対応

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめる。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価する。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
一学期中間	釈尊とその教え	釈尊以前のインド 釈尊の生涯について	○	○		I：仏教を開かれた釈尊の生涯とその教えについて学びます。釈尊の出家の動機や修行の過程を訪ね、悟りを開き、伝道の旅を続けられてから涅槃に至るまでの足跡を求めながら釈尊の生き方を理解している。 II：釈尊の五相について、それぞれのターニングポイントでどのようなきっかけがあったのか知り、自分の問題としてとらえて表現しようとしている。 III：釈尊の生涯から生き方について学び、それを自分の問題として多面的・多角的に受け止め、積極的に取り組もうとしている。	学期末に行う年3回の試験。授業を受けるにあたっての平常点。ノート、発表、課題提出。板書事項、説明等、きちんとノートにまとめられたか。また、内容を理解し、自己のあり方を見つめ直せたか。
一学期期末		・誕生	○	○			
		・出家	○	○			
		・成道	○	○			
		・伝道	○	○			
		・涅槃	○	○			
		2節 釈尊の教え					
		縁起	○	○			
		三法印	○	○			
		まとめ	○	○			
期末考査	○	○					
		※「日々の糧」・「聖典」のこ とば・時事問題を交えながら 学習する。			○		
二学期中間	釈尊とその教え・ 教えの流れ	四諦八正道	○	○		I：仏教がどのような形でまとめられ、インドからどのような形で中国に伝わったのかを理解している。 II：仏教の教えがどのような形で発展していったのかを時代背景とともに学び、公正に選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。 III：仏教の伝播について学び、その背景を多面的・多角的に受け止め、積極的に問題意識をもって取り組もうとしている。	
		1 最初の寺院	○	○			
		1節 経典の編集	○	○			
		2節 大乘仏教への道	○	○			
		大乘仏教	○	○			
		北伝仏教	○	○			
		※「日々の糧」・「聖典」のこ とば・時事問題を交えながら 学習する。			○		
二学期期末	教えの流れ	3節 仏教の日本伝来	○	○		I：仏教が中国・朝鮮半島からどのような形で中国に伝わったのかを理解している。 II：仏教の教えがどのような形で発展していったのかを時代背景とともに学	
		聖徳太子と日本仏教	○	○			
		まとめ	○	○			
		期末考査	○	○			
		※「日々の糧」・「聖典」のこ			○		

		とば・時事問題を交えながら学習する。				び、公正に選択・判断したり，思考・判断したことを説明したり，それらを基に議論したりしている。 Ⅲ：仏教の伝播について学び、その背景を多面的・多角的に受け止め、積極的に問題意識をもって取り組もうとしている。
三学期	教えの流れ	奈良時代の仏教 平安時代の仏教 (天台宗・真言宗) 鎌倉時代の仏教 (浄土教・禅宗・日蓮宗 など) ※「日々の糧」・「聖典」のことば・時事問題を交えながら学習する。 まとめ 学年末考査	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○	I：日本における仏教の変遷について学びます。仏教がそれぞれの時代でどのように受け入れられたのかを理解している。 II：仏教がそれぞれの時代に変化し、発展してきたのかを知り、興味をもって表現しようとしている。 III：教えをつなぐということについて、自分の問題として多面的・多角的に受け止め、積極的に取り組もうとしている。

2024年度 相愛高等学校 2年 普通科 専攻選択コース シラバス

教科	宗教	科目	宗教	単位数	1	選択等	必修
教科書	『見真』(本願寺出版社)						
副教材等	『日々の糧』 『聖典聖歌』						

1 学習の到達目標

仏教を開かれた釈尊の生涯、並びに仏教の基本的な教えを学び、自分自身を内観し、より充実した生き方の探究に繋げることを目標とする。授業の冒頭では「日々の糧」の言葉について考えを深めながら、他に対するおかげさまの心(感謝)や責任感を身につけ、心豊かな宗教的情操と主体的に生きる力を育む。

2学年の宗教では、釈尊の生涯・仏教の誕生・教え・歴史の変遷を学ぶ。インドで興った仏教がどのような経緯でアジアに伝わり、日本に伝わったのかを学ぶ。また、仏教の諸宗派についてもふれる。

2 担当者からのメッセージ(学習方法等)

仏教の基本は「縁起観」です。すべての事象は関係性によって、今、仮に成り立ち、それは刻々と変化し続けています。「私」もまたその事象の一つ。仏教のものの見方を学び、それを基に、皆さんが主体的に考え、物事に取り組んでいくことは自身の充実した人生に繋がります。今していることは未来に繋がっています。自分を信じて努力する心を養ってみてください。

3 学習評価(評価基準と評価方法)

観点	I: 知識・技能(技術)	II: 思考・判断・表現	III: 主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	釈尊の生涯、教えを正しく理解し、教えがどのように伝わっていくのか、その背景を正しく理解できているか。また、知識として理解を深めるだけでなく、理解を深めて人間性を養うことに繋がっているか。	釈尊の教えがインドから日本に伝わる歴史的な背景について関心を持ち、主体的に取り組む姿勢がみられるか。	仏教の学びを通じ、生活や社会、人間関係をよりよく構築するために、自主的に自己の役割や責任を果たし、多様な他者と協働して実践しようとしている。
評 価 方 法	定期考査	パフォーマンス課題 発問への対応 感想文等の取り組み	パフォーマンス課題 学習状況 発問への対応

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に5段階の評定にまとめる。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価する。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
一学期中間	釈尊とその教え	釈尊以前のインド 釈尊の生涯について	○	○		I：仏教を開かれた釈尊の生涯とその教えについて学びます。釈尊の出家の動機や修行の過程を訪ね、悟りを開き、伝道の旅を続けられてから涅槃に至るまでの足跡を求めながら釈尊の生き方を理解している。 II：釈尊の五相について、それぞれのターニングポイントでどのようなきっかけがあったのか知り、自分の問題としてとらえて表現しようとしている。 III：釈尊の生涯から生き方について学び、それを自分の問題として多面的・多角的に受け止め、積極的に取り組もうとしている。	学期末に行う年3回の試験。授業を受けるにあたっての平常点。ノート、発表、課題提出。板書事項、説明等、きちんとノートにまとめられたか。また、内容を理解し、自己のあり方を見つめ直せたか。
一学期期末		・誕生	○	○			
		・出家	○	○			
		・成道	○	○			
		・伝道	○	○			
		・涅槃	○	○			
		2節 釈尊の教え					
		縁起	○	○			
		三法印	○	○			
		まとめ	○	○			
期末考査	○	○					
		※「日々の糧」・「聖典」のこ とば・時事問題を交えながら 学習する。			○		
二学期中間	釈尊とその教え・ 教えの流れ	四諦八正道	○	○		I：仏教がどのような形でまとめられ、インドからどのような形で中国に伝わったのかを理解している。 II：仏教の教えがどのような形で発展していったのかを時代背景とともに学び、公正に選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。 III：仏教の伝播について学び、その背景を多面的・多角的に受け止め、積極的に問題意識をもって取り組もうとしている。	
		1 最初の寺院	○	○			
		1節 経典の編集	○	○			
		2節 大乘仏教への道	○	○			
		大乘仏教	○	○			
		北伝仏教	○	○			
		※「日々の糧」・「聖典」のこ とば・時事問題を交えながら 学習する。					
二学期期末	教えの流れ	3節 仏教の日本伝来				I：仏教が中国・朝鮮半島からどのような形で中国に伝わったのかを理解している。 II：仏教の教えがどのような形で発展していったのかを時代背景とともに学	
		聖徳太子と日本仏教	○	○			
		まとめ	○	○			
		期末考査	○	○			
		※「日々の糧」・「聖典」のこ			○		

		とば・時事問題を交えながら学習する。				び、公正に選択・判断したり，思考・判断したことを説明したり，それらを基に議論したりしている。 Ⅲ：仏教の伝播について学び、その背景を多面的・多角的に受け止め、積極的に問題意識をもって取り組もうとしている。
三学期	教 え の 流 れ	奈良時代の仏教 平安時代の仏教 (天台宗・真言宗) 鎌倉時代の仏教 (浄土教・禅宗・日蓮宗 など) ※「日々の糧」・「聖典」の ことば・時事問題を交え ながら学習する。 まとめ 学年末考査	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○	Ⅰ：日本における仏教の変遷について学びます。仏教がそれぞれの時代でどのように受け入れられたのかを理解している。 Ⅱ：仏教がそれぞれの時代に変化し、発展してきたのかを知り、興味をもって表現しようとしている。 Ⅲ：教えをつなぐということについて、自分の問題として多面的・多角的に受け止め、積極的に取り組もうとしている。

2024年度 相愛高等学校 2年 普通科 特進コース シラバス

教科	宗教	科目	宗教	単位数	1	選択等	必修
教科書	『見真』(本願寺出版社)						
副教材等	『日々の糧』 『聖典聖歌』						

1 学習の到達目標

仏教を開かれた釈尊の生涯、並びに仏教の基本的な教えを学び、自分自身を内観し、より充実した生き方の探究に繋げることを目標とする。授業の冒頭では「日々の糧」の言葉について考えを深めながら、他に対するおかげさまの心(感謝)や責任感を身につけ、心豊かな宗教的情操と主体的に生きる力を育む。

2学年の宗教では、釈尊の生涯・仏教の誕生・教え・歴史的変遷を学ぶ。インドで興った仏教がどのような経緯でアジアに伝わり、日本に伝わったのかを学ぶ。また、仏教の諸宗派についてもふれる。

2 担当者からのメッセージ(学習方法等)

仏教の基本は「縁起観」です。すべての事象は関係性によって、今、仮に成り立ち、それは刻々と変化し続けています。「私」もまたその事象の一つ。仏教のものの見方を学び、それを基に、皆さんが主体的に考え、物事に取り組んでいくことは自身の充実した人生に繋がります。今していることは未来に繋がっています。自分を信じて努力する心を養ってみてください。

3 学習評価(評価基準と評価方法)

観 点	Ⅰ：知識・技能(技術)	Ⅱ：思考・判断・表現	Ⅲ：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	釈尊の生涯、教えを正しく理解し、教えがどのように伝わっていくのか、その背景を正しく理解できているか。また、知識として理解を深めるだけでなく、理解を深めて人間性を養うことに繋がっているか。	釈尊の教えがインドから日本に伝わる歴史的な背景について関心を持ち、主体的に取り組む姿勢がみられるか。	仏教の学びを通じ、生活や社会、人間関係をよりよく構築するために、自主的に自己の役割や責任を果たし、多様な他者と協働して実践しようとしている。
評 価 方 法	定期考査	パフォーマンス課題 発問への対応 感想文等の取り組み	パフォーマンス課題 学習状況 発問への対応

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に5段階の評定にまとめる。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価する。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
一学期中間	釈尊とその教え	釈尊以前のインド 釈尊の生涯について	○	○		I：仏教を開かれた釈尊の生涯とその教えについて学びます。釈尊の出家の動機や修行の過程を訪ね、悟りを開き、伝道の旅を続けられてから涅槃に至るまでの足跡を求めながら釈尊の生き方を理解している。 II：釈尊の五相について、それぞれのターニングポイントでどのようなきっかけがあったのか知り、自分の問題としてとらえて表現しようとしている。 III：釈尊の生涯から生き方について学び、それを自分の問題として多面的・多角的に受け止め、積極的に取り組もうとしている。	学期末に行う年3回の試験。授業を受けるにあたっての平常点。ノート、発表、課題提出。板書事項、説明等、きちんとノートにまとめられたか。また、内容を理解し、自己のあり方を見つめ直せたか。
一学期期末		・誕生	○	○			
		・出家	○	○			
		・成道	○	○			
		・伝道	○	○			
		・涅槃	○	○			
		2節 釈尊の教え					
		縁起	○	○			
		三法印	○	○			
		まとめ	○	○			
期末考査	○	○					
		※「日々の糧」・「聖典」のこ とば・時事問題を交えながら 学習する。			○		
二学期中間	釈尊とその教え・ 教えの流れ	四諦八正道	○	○		I：仏教がどのような形でまとめられ、インドからどのような形で中国に伝わったのかを理解している。 II：仏教の教えがどのような形で発展していったのかを時代背景とともに学び、公正に選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。 III：仏教の伝播について学び、その背景を多面的・多角的に受け止め、積極的に問題意識をもって取り組もうとしている。	
		1 最初の寺院	○	○			
		1節 経典の編集	○	○			
		2節 大乘仏教への道	○	○			
		大乘仏教	○	○			
		北伝仏教	○	○			
		※「日々の糧」・「聖典」のこ とば・時事問題を交えながら 学習する。			○		
二学期期末	教えの流れ	3節 仏教の日本伝来				I：仏教が中国・朝鮮半島からどのような形で中国に伝わったのかを理解している。 II：仏教の教えがどのような形で発展していったのかを時代背景とともに学	
		聖徳太子と日本仏教	○	○			
		まとめ	○	○			
		期末考査	○	○			
		※「日々の糧」・「聖典」のこ			○		

		とば・時事問題を交えながら学習する。				び、公正に選択・判断したり，思考・判断したことを説明したり，それらを基に議論したりしている。 Ⅲ：仏教の伝播について学び、その背景を多面的・多角的に受け止め、積極的に問題意識をもって取り組もうとしている。
三学期	教えの流れ	奈良時代の仏教 平安時代の仏教 (天台宗・真言宗) 鎌倉時代の仏教 (浄土教・禅宗・日蓮宗など) ※「日々の糧」・「聖典」のことば・時事問題を交えながら学習する。 まとめ 学年末考査	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○	Ⅰ：日本における仏教の変遷について学びます。仏教がそれぞれの時代でどのように受け入れられたのかを理解している。 Ⅱ：仏教がそれぞれの時代に変化し、発展してきたのかを知り、興味をもって表現しようとしている。 Ⅲ：教えをつなぐということについて、自分の問題として多面的・多角的に受け止め、積極的に取り組もうとしている。

2024 年度 相愛高等学校 2 年 音楽科 古典探究 シラバス

教科	国語	科目	古典探究	単位数	2	選択等	必修
教科書	『古典探究』 (大修館書店)						
副教材等	『解釈のための必携古典文法 三訂版』(啓隆社)、 『改訂版 常用国語便覧』(浜島書店) 『重点整理 新・国文学史ノート』(日栄社)、 『古文単語 300』(旺文社) 『評解 新小倉百人一首』(京都書房) (以上高校1年より継続して利用)						

1 学習の到達目標

<p>古文や漢文を主体的に読み深めることを通して、日本の伝統的な言語文化への理解や関心を深めることを目的とする。</p> <p>(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方の関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>
--

2 担当者からのメッセージ (学習方法等)

<p>古典を「読むこと」を軸に、単に現代語訳に改めることをゴールにするのではなく、古典の解釈をするために積極的に文化理解を深め、時にクリティカルな読みを含め、積極的な学習態度を涵養したい。話の構成や展開に工夫があることに気づき、自らの言語活動の質をも向上させてほしいと思っています。</p>

3 学習評価 (評価基準と評価方法)

観 点	Ⅰ：知識・技能 (技術)	Ⅱ：思考・判断・表現	Ⅲ：主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	伝統的な言語文化に親しみ、言語の特徴や決まりなどについて理解する。本文の目的や場面、意図に応じ、論理の展開に目を見張り、説得力のある文章を書いている。	目的や場所に応じ、相手に合わせて話したり、目的や意図に応じ、文章の展開や表現の仕方などを評価したりしながら読み、文化などについて自分の考えを持っている。	国語で理解する能力を進んで高めるとともに、国語に対する認識を深め、読書を通して自己を向上させようとする。
評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習状況 ・ 確認テスト ・ レポート ・ 発問への応答 ・ 疑問の発露 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習状況 ・ 確認テスト ・ レポート ・ 発問への応答 ・ 疑問の発露 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習状況 ・ レポート ・ 発問への応答 ・ 疑問の発露

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について◎をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中 間	説話	『宇治拾遺物語』 「検非違使忠明」 『十訓抄』 「大江山いくのの道」	◎	○	○	古文を読むことに役立つ、文語のきまりを身に付けている。 作品の成立時代や背景を理解し、文章に描れている人物の心情を表現に即して読み、異なる立場から読み深めている。	・行動の観察 ・記述の確認 ・提出物 ・小テスト ・定期考査
1 学期 期 末	随筆・歌物語	随筆 歌物語 『方丈記』 「行く川の流れ」 『伊勢物語』 「月やあらぬ」	○	◎	○	物事の様子や場面などを、読み手が言葉をしてありありと想像できるよう描いている。 書くことに必要な、文の組み立てについて理解している。	・行動の観察 ・記述の確認 ・提出物 ・小テスト ・定期考査
2 学期 中 間	漢文・日記文学	『史記』 「項王の最期」 『土佐日記』 「門出」	○	◎	○	文章に描かれている情景を、文や文章、語などから離れないようにして読み、人物の言動や状況を捉える手掛かりとしている。 漢文を読むことに役立つ、訓読のきまりを身に付けている。 古文を読むことに役立つ、文語のきまりを身に付けている。	・行動の観察 ・記述の確認 ・提出物 ・小テスト ・定期考査
2 学期 期 末	物語・随筆	『源氏物語』 「若紫」 『枕草子』 「中納言参りたまひて」	◎	○	○	我が国の言語文化は、中国をはじめとする外国の文化の受容とその変容を繰り返しつつ築かれてきたに気付いている。 古文を読むことに役立つ、文語のきまりを身に付けている。 文章の組立てや骨組みを的確に捉えている。 人物、情景、心情などを、どうして書き手がこのように描いているのかを捉え、象徴、予兆などが果たしている効果に気付いている。 文章の形態や文体の違いによる特色について理解している。	・行動の観察 ・記述の確認 ・提出物 ・小テスト ・定期考査

3 学 期	歴 史 物 語 ・ 歌 論	『大鏡』 「競べ弓」 『無名抄』 「おもて歌」	○	◎	○	<p>人物、情景、心情などを、どのように書き手が描いているのかを捉え、言葉の美しさや深さに気付いている。</p> <p>文章の形態や文体の違いによる特色について、理解している。</p> <p>古文を読むことに役立つ、文語のきまりを身に付けている。</p> <p>日本文化に組み込まれた幽玄の端緒を知り、輻輳する意味構造や古歌を引くことについて理解できている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・行動の観察 ・記述の確認 ・提出物 ・小テスト ・定期考査
-------------	---------------------------------	--------------------------------------	---	---	---	--	--

2024年度 相愛高等学校 2年 音楽科 シラバス

教科	国語	科目	文学国語	単位数	2	選択等	必修
教科書	『文学国語』（大修館書店）						
副教材等	『重点整理 新・国文学史ノート』（日栄社） 『評解 新小倉百人一首』（京都書房） 『改訂版 常用国語便覧』（浜島書店）						

1 学習の到達目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」を軸に、アクティブな学習態度を涵養したい。実社会の中から適切な話題をつかむこと、自らの考えを明確にすること、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫することも能力として養いつつ、言語活動の質を向上させてほしいと思っています。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観点	Ⅰ：知識・技能（技術）	Ⅱ：思考・判断・表現	Ⅲ：主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	伝統的な言語文化に親しんだり、言葉の特徴や決まり、漢字などについて理解し使ったりする。目的や場面、意図に応じ、文章の形態を選択し、論理の展開に工夫して、説得力のある文章を書いている。	目的や場所に応じ相手に合わせて話したり、目的や意図に応じ、文章の展開や表現の仕方などを評価したりしながら読み、人間社会自然などについて自分の考えを持っている。	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語に対する認識を深め、読書を通して自己を向上させようとする。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への応答 ・疑問の発露 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への応答 ・疑問の発露 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への応答 ・疑問の発露

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について◎をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間	随想・評論	『十八歳の選択』朝井リョウ 『浄瑠璃寺の春』堀辰雄	○	◎	○	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者の経験に基づいた考えを読み取る。内容や構成、展開などを的確にとらえている。 ・想像や共感を通して、自身の生き方について考えを深めている。 ・文中の自然と人間の関係に興味を持ち、描写や表現を味わっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動の観察 ・記述の確認 ・提出物 ・定期考査
1 学期 期末	小説・詩	『山月記』中島敦（翻訳が広げる世界） 『小景異情』室生犀星	○	◎	○	<ul style="list-style-type: none"> ・主人公の境遇を把握し、心情を想像する。文学的な文章の特徴を理解している。 ・翻訳作品と元の作品との比較を通して作者の意図を理解している。 ・詩の形式やリズムを味わい、表現効果を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動の観察 ・記述の確認 ・提出物 ・小テスト ・定期考査
2 学期 中間	俳句・小説	俳句 『こころ』夏目漱石	○	◎	○	<ul style="list-style-type: none"> ・俳句の形式やリズムを味わい、表現効果について理解している。 ・情景の豊かさや心情の機微を表す語句を理解している。 ・登場人物の心情理解を通し、自己の生き方や他者との関わりについて考えを深めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動の観察 ・記述の確認 ・提出物 ・小テスト ・定期考査
2 学期 期末	小説	『こころ』夏目漱石	○	◎	○	<ul style="list-style-type: none"> ・文学的な文章を通して、言語文化の特質について理解を深め、語感を磨き、語彙を増やそうとしている。 ・文章の内容や構成、展開を的確にとらえ、自然や人間社会への考え方を深めようとしている。 ・登場人物の境遇やそれぞれの人間関係を把握し、作品の魅力を読み味わっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動の観察 ・記述の確認 ・提出物 ・小テスト ・定期考査
3 学期	小説・短歌	『山椒魚』井伏鱒二 短歌	○	◎	○	<ul style="list-style-type: none"> ・構成や表現効果に着目しながら、寓意的な表現に込められた主題を読みとることができる。 ・言葉には想像や心情を豊かにする働きがあることを理解し、作品の解釈や人間社会、自然に対する物の見方や考え方を深めようとしている。 ・韻文の表現効果について理解を深め、作品の魅力を読み味わおうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動の観察 ・記述の確認 ・提出物 ・小テスト ・定期考査

2024年度 相愛高等学校 2年 音楽科 シラバス

教科	国語	科目	論理国語	単位数	2	選択等	必須
教科書	「論理国語」 (大修館書店)						
副教材等	「常用漢字必携パーフェクトクリア」(尚文出版)						

1 学習の到達目標

様々なテーマの表論文、随筆を読む能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって人生を豊かにする態度を育てる。

また、国語を適切に表現でき、的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばしていく。

2 担当者からのメッセージ (学習方法等)

様々な文章を通して、自らの物事に対する捉え方の幅を広げ、思考を深められるようにしましょう。学び得た知識を読解力に活かすと同時に、コミュニケーション能力にも活かすことができるようにしましょう。

3 学習評価 (評価基準と評価方法)

観 点	Ⅰ：知識・技能 (技術)	Ⅱ：思考・判断・表現	Ⅲ：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	論理の展開を工夫して説得力のある文章を書くことができ、言葉の決まりや適切な言葉遣い、漢字などについて理解し使ったりするとともに、現代思想に関心を持ち、効果的に自己の考えを表現する	他者の考えや意見を傾聴し、目的や場面に応じ、相手の様子に合わせて話したり、表現の工夫を評価して聞いたり、課題の解決に向けて話し合ったりしている。	国語で伝え表現する力を進んで高めるとともに、国語に対する認識を深め、他者の意見との差異を認め、言語活動を通して自己を向上させようとする
評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・定期テスト ・発問への応答 ・ミニレポート 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・定期テスト ・発問への応答 ・ミニレポート 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・発問への応答 ・ミニレポート

上に示す観点に基づいて、学習のまとめごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間		<ul style="list-style-type: none"> 対話の精神 余白の美学 	○	○ ○	○	<p>文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながる要旨を把握している。</p> <p>目的や意図に応じ、文章の展開や表現の仕方などを適切に読み取り表現することができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学習状況 発問への応答 疑問の発露
1 学期 期末		<ul style="list-style-type: none"> コミュニティから見た日本 科学は生きている 	○	○ ○	○	<p>論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。</p> <p>目的や意図に応じ、文章の展開や表現の仕方などを適切に読み取り表現することができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学習状況 発問への応答 疑問の発露
2 学期 中間		<ul style="list-style-type: none"> 人工知能の可能性と畏 「方言コスプレ」現象 	○	○ ○	○	<p>言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、自身で表現できる。</p> <p>主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学習状況 発問への応答 疑問の発露
2 学期 期末		<ul style="list-style-type: none"> スキーマと記憶 分かち合う社会 	○ ○	○ ○	○ ○	<p>論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。</p> <p>主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学習状況 発問への応答 疑問の発露
3		<ul style="list-style-type: none"> 世界は、いま グローバルゼーション 	○	○ ○	○	<p>文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学習状況 発問への

学 期		ンと文化			にしながら要旨を把握している。 自己の能力をきちんと分析し、対策を立て、計画的に勉強している。	応答 ・疑問の発露
--------	--	------	--	--	--	--------------

2024年度 相愛高等学校 2年 普通科 専攻選択コース シラバス

教科	国語	科目	国語表現	単位数	2	選択等	必須
教科書	「国語表現」 (大修館書店)						
副教材等	「国語表現 基礎練習ノート」						

1 学習の到達目標

対象を客観的・多角的に観察できるようになる。観察した内容を分析し、論理的に伝達する能力を獲得する。情報収集力、また発信力を高めることを目的として、分析、精確な言語感覚を養う。コミュニケーション能力の向上を求め、筆録のみならずプレゼンテーションの多様性を実践する。

- ・多角的に物事を捉え、根拠を明確化し考察する能力を育成する。
- ・課題に即して意見を表現し、構成する力を養う。

2 担当者からのメッセージ (学習方法等)

対象を的確に読み取る力を養うとともに、わかりやすく、説得力を持った文章を書けるようになりましょう。対象を多角的・多面的に把握し、そこに至るまでの自分の思考と結論を整理し、他者に正確に伝達できるようになってください。口頭発表や批評するためのコメントカード記入を求めています。

3 学習評価 (評価基準と評価方法)

観 点	Ⅰ：知識・技能 (技術)	Ⅱ：思考・判断・表現	Ⅲ：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	言葉の決まりや適切な言葉遣い、伝統的な言語文化に親しみ、漢字などについて理解し使ったりするとともに、文字をはじめとする記号に関心を持ち、効果的に文章を書いている	他者の考えや意見を傾聴し、目的や意図に応じ、文章の展開や表現の仕方などを評価しながら読み、自己の意見を多角的に広げ構築する	国語で伝え表現する力を進んで高めるとともに、国語に対する認識を深め、他者の意見との差異を認め、言語活動を通して自己を向上させようとする
評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・定期テスト ・発問への応答 ・ミニレポート 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・定期テスト ・発問への応答 ・ミニレポート 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・定期テスト ・発問への応答 ・ミニレポート

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間		<ul style="list-style-type: none"> ・言葉と表記 ・マイニュース記事を書こう 	○	○	○	<p>言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、自身で表現できる。</p> <p>目的や意図に応じ、文章の展開や表現の仕方などを適切に読み取り表現することができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・発問への応答 ・疑問の発露
1 学期 期末		<ul style="list-style-type: none"> ・整った文を書く ・相手に応じた言葉遣い ・魅力的なポスターを作ろう 	○	○	○	<p>言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、自身で表現できる。</p> <p>目的や意図に応じ、文章の展開や表現の仕方などを適切に読み取り表現することができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・発問への応答 ・疑問の発露
2 学期 中間		<ul style="list-style-type: none"> ・わかりやすい文を書く ・文のつなぎ方 ・相手や場面に応じた会話 	○	○	○	<p>言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、自身で表現できる。</p> <p>目的や意図に応じ、文章の展開や表現の仕方などを適切に読み取り表現することができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・発問への応答 ・疑問の発露
2 学期 期末		<ul style="list-style-type: none"> ・建設的な議論の進め方 ・スピーチをしよう ・プレゼンテーションの工夫 	○	○	○	<p>情報を正確に集め自己の意見の根拠、説得力のある表現方法を考え、他者に伝え協働することができる。</p> <p>自己の能力をきちんと分析し、対策を立て、計画的に勉強している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・発問への応答 ・疑問の発露
3 学期		<ul style="list-style-type: none"> ・「わが町自慢」のパンフレット作り ・みんなで作ろう国語辞典 	○	○	○	<p>情報を正確に集め自己の意見の根拠、説得力のある表現方法を考え、他者に伝え協働することができる。</p> <p>自己の能力をきちんと分析し、対策を立て、計画的に勉強している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・発問への応答 ・疑問の発露

2024年度 相愛高等学校 2年 普通科 専攻選択コース シラバス

教科	国語	科目	論理国語	単位数	2	選択等	必須
教科書	「論理国語」 (大修館書店)						
副教材等	「常用漢字必携パーフェクトクリア」(尚文出版)						

1 学習の到達目標

様々なテーマの表論文、随筆を読む能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって人生を豊かにする態度を育てる。

また、国語を適切に表現でき、的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばしていく。

2 担当者からのメッセージ (学習方法等)

様々な文章を通して、自らの物事に対する捉え方の幅を広げ、思考を深められるようにしましょう。学び得た知識を読解力に活かすと同時に、コミュニケーション能力にも活かすことができるようにしましょう。

3 学習評価 (評価基準と評価方法)

観 点	Ⅰ：知識・技能（技術）	Ⅱ：思考・判断・表現	Ⅲ：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	論理の展開を工夫して説得力のある文章を書くことができ、言葉の決まりや適切な言葉遣い、漢字などについて理解し使ったりするとともに、現代思想に関心を持ち、効果的に自己の考えを表現する	他者の考えや意見を傾聴し、目的や場面に応じ、相手の様子に合わせて話したり、表現の工夫を評価して聞いたり、課題の解決に向けて話し合ったりしている。	国語で伝え表現する力を進んで高めるとともに、国語に対する認識を深め、他者の意見との差異を認め、言語活動を通して自己を向上させようとする
評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・定期テスト ・発問への応答 ・ミニレポート 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・定期テスト ・発問への応答 ・ミニレポート 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・発問への応答 ・ミニレポート

上に示す観点に基づいて、学習のまとめごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間		<ul style="list-style-type: none"> 対話の精神 余白の美学 	○	○ ○	○	<p>文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながらか要旨を把握している。</p> <p>目的や意図に応じ、文章の展開や表現の仕方などを適切に読み取り表現することができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学習状況 発問への応答 疑問の発露
1 学期 期末		<ul style="list-style-type: none"> コミュニティから見た日本 科学は生きている 	○	○ ○	○	<p>論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。</p> <p>目的や意図に応じ、文章の展開や表現の仕方などを適切に読み取り表現することができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学習状況 発問への応答 疑問の発露
2 学期 中間		<ul style="list-style-type: none"> 人工知能の可能性と畏 「方言コスプレ」現象 	○	○ ○	○	<p>言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、自身で表現できる。</p> <p>主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学習状況 発問への応答 疑問の発露
2 学期 期末		<ul style="list-style-type: none"> スキーマと記憶 分かち合う社会 	○ ○	○ ○	○ ○	<p>論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。</p> <p>主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学習状況 発問への応答 疑問の発露
3		<ul style="list-style-type: none"> 世界は、いま グローバルゼーション 	○	○ ○	○	<p>文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学習状況 発問への

学 期		ンと文化			にしながら要旨を把握している。 自己の能力をきちんと分析し、対策を立て、計画的に勉強している。	応答 ・疑問の発 露
--------	--	------	--	--	--	------------------

2024年度 相愛高等学校 2年 専攻進学科 シラバス

教科	国語	科目	文学国語	単位数	2	選択等	必修
教科書	『文学国語』（大修館書店）						
副教材等	『改訂版 常用国語便覧』（浜島書店）						

1 学習の到達目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」を軸に、アクティブな学習態度を涵養したい。実社会の中から適切な話題をつかむこと、自らの考えを明確にすること、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫することも能力として養いつつ、言語活動の質を向上させてほしいと思っています。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観点	Ⅰ：知識・技能（技術）	Ⅱ：思考・判断・表現	Ⅲ：主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	伝統的な言語文化に親しんだり、言葉の特徴や決まり、漢字などについて理解し使ったりする。目的や場面、意図に応じ、文章の形態を選択し、論理の展開に工夫して、説得力のある文章を書いている。	目的や場所に応じ相手に合わせて話したり、目的や意図に応じ、文章の展開や表現の仕方などを評価したりしながら読み、人間社会自然などについて自分の考えを持っている。	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語に対する認識を深め、読書を通して自己を向上させようとする。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習状況 ・ 確認テスト ・ レポート ・ 発問への応答 ・ 疑問の発露 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習状況 ・ 確認テスト ・ レポート ・ 発問への応答 ・ 疑問の発露 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習状況 ・ 確認テスト ・ レポート ・ 発問への応答 ・ 疑問の発露

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について◎をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間	随想・評論	『十八歳の選択』朝井リョウ 『浄瑠璃寺の春』堀辰雄	○	◎	○	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者の経験に基づいた考えを読み取る。内容や構成、展開などを的確にとらえている。 ・想像や共感を通して、自身の生き方について考えを深めている。 ・文中の自然と人間の関係に興味を持ち、描写や表現を味わっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動の観察 ・記述の確認 ・提出物 ・定期考査
1 学期 期末	小説・詩	『山月記』中島敦（翻訳が広げる世界） 『小景異情』室生犀星	○	◎	○	<ul style="list-style-type: none"> ・主人公の境遇を把握し、心情を想像する。文学的な文章の特徴を理解している。 ・翻訳作品と元の作品との比較を通して作者の意図を理解している。 ・詩の形式やリズムを味わい、表現効果を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動の観察 ・記述の確認 ・提出物 ・小テスト ・定期考査
2 学期 中間	俳句・小説	俳句 『こころ』夏目漱石	○	◎	○	<ul style="list-style-type: none"> ・俳句の形式やリズムを味わい、表現効果について理解している。 ・情景の豊かさや心情の機微を表す語句を理解している。 ・登場人物の心情理解を通し、自己の生き方や他者との関わりについて考えを深めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動の観察 ・記述の確認 ・提出物 ・小テスト ・定期考査
2 学期 期末	小説	『こころ』夏目漱石	○	◎	○	<ul style="list-style-type: none"> ・文学的な文章を通して、言語文化の特質について理解を深め、語感を磨き、語彙を増やそうとしている。 ・文章の内容や構成、展開を的確にとらえ、自然や人間社会への考え方を深めようとしている。 ・登場人物の境遇やそれぞれの人間関係を把握し、作品の魅力を読み味わっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動の観察 ・記述の確認 ・提出物 ・小テスト ・定期考査
3 学期	小説・短歌	『山椒魚』井伏鱒二 短歌	○	◎	○	<ul style="list-style-type: none"> ・構成や表現効果に着目しながら、寓意的な表現に込められた主題を読みとることができる。 ・言葉には想像や心情を豊かにする働きがあることを理解し、作品の解釈や人間社会、自然に対する物の見方や考え方を深めようとしている。 ・韻文の表現効果について理解を深め、作品の魅力を読み味わおうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動の観察 ・記述の確認 ・提出物 ・小テスト ・定期考査

2024年度 相愛高等学校 2年 普通科 特進コース シラバス

教科	国語	科目	古典探究	単位数	3	選択等	必修
教科書	『古典探究』（大修館書店）						
副教材等	『解釈のための必携古典文法 三訂版』（啓隆社）、 『改訂版 常用国語便覧』（浜島書店） 『重点整理 新・国文学史ノート』（日栄社）、 『古文単語 300』（旺文社） 『評解 新小倉百人一首』（京都書房） 〈以上高校1年より継続して利用〉						

1 学習の到達目標

古文や漢文を主体的に読み深めることを通して、日本の伝統的な言語文化への理解や関心を深めることを目的とする。

- (1) 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付け、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深める。
- (2) 論理的に考える力を伸ばし、先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

古文・漢文を自ら読み解ける楽しさを追究してほしい。古典を読み解くためにも、語彙力をつけ、文法、常識の習得にも積極的に取り組んでいこう。先人の「知」「生き方」「文化交流」に触れ、自らの視野を広げていってほしい。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観点	Ⅰ：知識・技能（技術）	Ⅱ：思考・判断・表現	Ⅲ：主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	伝統的な言語文化に親しみ、言語の特徴や決まりなどについて理解する。本文の目的や場面、意図に応じ、論理の展開に目を見張り、説得力のある文章を書いている。	目的や場所に応じ、相手に合わせて話したり、目的や意図に応じ、文章の展開や表現の仕方などを評価したりしながら読み、文化などについて自分の考えを持っている。	国語で理解する能力を進んで高めるとともに、国語に対する認識を深め、読書を通して自己を向上させようとする。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への応答 ・疑問の発露 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への応答 ・疑問の発露 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・レポート ・発問への応答 ・疑問の発露
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 Ⅰ：知識・技能 Ⅱ：思考・判断・表現 Ⅲ：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について◎をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間	説話	『宇治拾遺物語』 「検非違使忠明の事」 『十訓抄』 「大江山いくのの道」 『今昔物語集』 「安倍清明」 漢文 句形	◎	○	○	I 古典を読むために必要な文語の決まりについて理解している。 II 「読むこと」において文章の種類を踏まえ、内容を的確に捉える。 III 説話文学に興味を持ち、登場人物の言動など多様な価値観を読み取る。	・行動の観察 ・記述の確認 ・提出物 ・小テスト ・定期考査
1 学期 期末	随筆・歌物語	『伊勢物語』 「月やあらぬ」 『徒然草』 「家居のつきづきしく」 助動詞復習・助詞 漢文句形	○	◎	○	I 語句の意味や用法を理解し、語句の量を増やし、語感を磨く。 ・和歌の修辞表現の特色について理解を深める。 II 「読むこと」において、古典の作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方にふれ、人間、社会、自然に対する自分の考えを深める。 III 作品の文学的位置づけを理解し、作品の特徴について考える。	・行動の観察 ・記述の確認 ・提出物 ・小テスト ・定期考査
2 学期 中間	日記文学	『更級日記』 『土佐日記』 「門出」 助詞・敬語 漢文句形	○	◎	○	I 古典作品や文章の種類とその特徴について理解を深める。 ・文語の決まりや訓読の決まりについて理解を深める。 II 「読むこと」において、内容や解釈を自分の知見と結びつけ、考えを深める。 III 作品に興味を持ち、教材以外の作品についても積極的調べようとする。	・行動の観察 ・記述の確認 ・提出物 ・小テスト ・定期考査
2 学期 期末	物語・漢文	『源氏物語』 「若紫」 『史記』 「項王の最期」	◎	○	○	I 我が国の文化と中国など外国の文化との関係に理解を深める。 II 「読むこと」において、作品の成立した背景やほかの作品との関係を踏まえながら、内容の解釈を深める。 III 作品について、興味を持ち、登場人物の行動や心情について考えようとする。	・行動の観察 ・記述の確認 ・提出物 ・小テスト ・定期考査

3 学 期	随 筆 ・ 歴 史 物 語	『枕草子』 「中納言参りたまひて」 『大鏡』 「競べ弓」	◎	○	○	<p>I 古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、語彙を豊かにする。</p> <p>II 「読むこと」において、書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈する。</p> <p>III 作品の優れた表現を味わい、歴史的背景を踏まえて解釈する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・行動の観察 ・記述の確認 ・提出物 ・小テスト ・定期考査
-------------	---------------------------------	---	---	---	---	---	--

1 学 期 中 間		到達度テスト【春】解説	○	○	○	<p>I 漢字や単語の知識を吸収しようとする。</p> <p>II 文章を的確に読もうとする。 キーワードやキーセンテンスを見つけ出すことができる。</p> <p>III 自身の誤答の原因を明らかにしようとする。 疑問の所在を明らかにし、解決しようすることができる。</p> <p>II 注と関連させて本文を読むことができる。</p> <p>III 分からない言葉や習慣について調べることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への応答
1 学 期 期 末		ベネッセ総合学力テスト7月過去問解説	○	○	○	<p>I 漢字や単語の知識を吸収しようとする。</p> <p>II 文章を的確に読もうとする。 各種文章の特性を知り、客観的に分析して読むことができる。</p> <p>III 自身の誤答の原因を明らかにしようとする。</p> <p>I 文語文法、古典常識を活用して読もうとする。</p> <p>II 注と関連させて本文を読むことができる。</p> <p>III 既習の事項を活用して、文章を読み、問題を解くことができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への応答 ・定期考査
2 学 期 中 間		到達度テスト【秋】解説 日本の伝統的な文化・習慣について学ぶ	○	○	○	<p>I 既知の事実と新たな知識を連動して考えることができる。</p> <p>II 各文章・資料の特性を知り、読み比べができる。</p> <p>III 自身の誤答の原因を明らかにしようとする。</p> <p>I 文語文法、古典常識を活用して読みを深められる。</p> <p>II 伝統的な文化・習慣と現代の文化・習慣との相違点と相似点を見つけることができる。</p> <p>III 既習の事項を活用して、文章を読み、問題を解くことができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への応答

2 学 期 期 末		ベネッセ総合学力テスト11月過去問解説	○	○	○	<p>I 漢字や単語の知識を学び、運用しようとする。</p> <p>II 文章を的確に読もうとする。 文章全体構成を意識して読むことができる。</p> <p>III 自身の誤答の原因を明らかにしようとする。</p> <p>I 文語文法、古典常識の知識を活用して、文章を読み解こうとする。</p> <p>II 伝統的な文化・習慣と現代の文化・習慣の相違点と相似点を、他者と共有することができる。</p> <p>III 既習の事項を活用して、文章を読み、問題を解くことができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への応答 ・定期考査
3 学 期		ベネッセ総合学力テスト1月過去問解説	○	○	○	<p>I 漢字や単語の知識を深め、運用しようとする。</p> <p>II 文章を的確に読もうとする。 各文章について客観的に分析し、他者と共有することができる。</p> <p>III 既習の事項を活用して、文章を読み、問題を解くことができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への応答 ・定期考査

2024年度 相愛高等学校 2年 普通科 特進コース シラバス

教科	地理歴史	科目	日本史探究	単位数	3	選択等	文系選択
教科書	詳説日本史（山川出版社）						
副教材等	新詳日本史（浜島書店）、プリント						

1 学習の到達目標

我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連づけて総合的に考察させ、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に生きる人としての自覚と資質を養う。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

歴史は暗記科目ではありません。理解しようという姿勢で授業にのぞめば、日本史がどんどん好きになって自然に知識は定着します。毎週一回の復習テストに合格することで全国模試の成績も上がり、難関大学に挑戦できるようになります。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観点	Ⅰ：知識・技能（技術）	Ⅱ：思考・判断・表現	Ⅲ：主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
評価方法	定期考査 宿題テスト・小テスト 提出物 授業態度	定期考査 授業中の発問に対する回答 授業態度 提出物	定期考査 授業中の発問に対する姿勢 授業態度 提出物

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間	原始・古代	日本文化のあけぼの 古墳とヤマト政権	○	○	○	文化のはじまり 農耕社会の成立 古墳文化の展開 飛鳥の朝廷	定期考査 宿題テスト・ 小テスト 授業中の発問に対する姿勢 授業態度 提出物
1 学期 期末	原始・古代	律令国家の形成 貴族政治の展開	○	○	○	律令国家への道 平城京の時代 律令国家の文化 律令国家の変容 摂関政治 国風文化 地方政治の展開と武士	定期考査 宿題テスト・ 小テスト 授業中の発問に対する姿勢 授業態度 提出物
2 学期 中間	中世	院政と武士の文化 武家政権の成立	○	○	○	院政のはじまり 院政と平氏政権 鎌倉幕府の成立 武士の社会 蒙古襲来と幕府の衰退 鎌倉文化	定期考査 宿題テスト・ 小テスト 授業中の発問に対する姿勢 授業態度 提出物
2 学期 期末	中世	武家社会の成長	○	○	○	室町幕府の成立 幕府の衰退と庶民の台頭 室町文化 戦国大名の台頭	定期考査 宿題テスト・ 小テスト 授業中の発問に対する姿勢 授業態度 提出物
	近	近世の幕開け	○	○	○	織豊政権	定期考査

2024年度 相愛高等学校 2年 普通科特進コース シラバス

教科	数学	科目	数学 B	単位数	2	選択等	必修
教科書	高等学校 数学 B、数学 C (数研出版)						
副教材等	4プロセス 数学 II+B、数学 C (数研出版) チャート式 解法と演習 数学 II+B、数学 C (数研出版) スタディサプリ						

1 学習の到達目標

数列, 統計的な推測について理解させ, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, 数学と社会生活の関わりについて認識を深め, 事象を数学的に考察する能力を培い, 数学のよさを認識できるようにするとともに, それらを活用する態度を育てる。

2 担当者からのメッセージ (学習方法等)

本年度より, 指導要録が変わり「統計的な推測」が必須となった。さらに数学 C も追加され, 文系理系に関わらずベクトルは共通テストの範囲として指定された。これらを踏まえ, これまで以上に数学 B の授業の重要度が増していることを念頭に, 授業に向き合っていただきたい。

3 学習評価 (評価基準と評価方法)

観点	Ⅰ：知識・技能 (技術)	Ⅱ：思考・判断・表現	Ⅲ：主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	数列, 統計的な推測, ベクトルについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに, 数学と社会生活の関わりについて認識を深め, 事象を数学化したり, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	離散的な変化の規則性に着目し, 事象を数学的に表現し考察する力, 確率分布や標本分布の性質に着目し, 母集団の傾向を推測し判断したり, 標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力, 日常の事象や社会の事象を数学化し, 問題を解決したり, 解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度, 粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度, 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
評価方法	朝テスト 授業中の小テスト 定期考査	授業中の小テスト 定期考査 レポート課題	提出物 レポート課題

上に示す観点に基づいて, 学習のまとめごとに評価し, 各学期に通信票で提示, 学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて, それぞれの観点を適切に配分し, 評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間	数列	第1節 等差数列と等比数列	○	○	○	数列やその一般項の表し方について理解する。また、基本的な数列として等差数列と等比数列を理解し、それらの和を求められるようにする。また、これらの数列を様々な事象の考察に役立てようとする姿勢がある。	小テスト 定期考査 提出物 レポート課題
1 学期 期末	数列	第2節 いろいろな数列 第2節 漸化式と数学的帰納法	○	○	○	和の記号 Σ の表し方や性質を理解し、活用できる。また、いろいろな数列について、その一般項や和を求めたり、和から一般項を求めたりできる。 数列の帰納的な定義について理解し、漸化式から一般項が求められるとともに、複雑な漸化式を既知のものに帰着して考えられる。また、数学的帰納法の仕組みを理解し、様々な命題の証明に活用できる。	小テスト 定期考査 提出物 レポート課題
2 学期 中間	統計的な推測	第2章 統計的な推測 第1節 確率分布 第2節 統計的な推測 第3章 数学と社会生活	○	○	○	確率変数と確率分布について理解し、期待値や分散、標準偏差などを求めることを通じて、分布の特徴を把握できる。また、連続型確率変数についても理解し、正規分布を様々な日常の事象の考察に活用できる。 母集団と標本、標本平均について理解し、特に標本平均については、それが確率変数であることを正しく理解した上で考察できる。また、母平均や母比率の推定、正規分布を用いた仮説検定ができ、それらを日常の事象の考察や様々な判断に積極的に活用できる。 社会生活などにおける問題を、数学を活用して解決する意義について理解するとともに、日常の事象や社会の事象などを数学化し、数理的に問題を解決する方法を知り、積極的に数学を活用できる。	小テスト 定期考査 提出物 レポート課題
2	平	数学C	○	○	○	向きと大きさをもつ量としてのベク	小テスト

学 期 末	面 上 の ベ ク ト ル	第1章 平面上のベクトル 第1節 ベクトルと その演算			トルの意味およびその演算について理解し、成分表示も含めてベクトルの演算ができる。また、ベクトルの内積について理解し、平面上のベクトルのなす角について考察できる。	定期考査 提出物 レポート課題
3 学 期	平 面 上 の ベ ク ト ル	第2節 ベクトルと 平面図形	○	○	位置ベクトルについて理解し、位置ベクトルを図形の性質を調べるのに活用できる。また、図形をベクトルを用いて表せることを理解し、基本的な図形のベクトル方程式を求めたり、ベクトル方程式が表す図形を求めたりできる。	小テスト 定期考査 提出物 レポート課題

2024年度 相愛高等学校 2年 普通科特進コース文系 シラバス

教科	数学	科目	数学Ⅱ(文系)	単位数	4	選択等	必修
教科書	高等学校 数学Ⅱ (数研出版)						
副教材等	4プロセス 数学Ⅱ+B (数研出版) チャート式 解法と演習 数学Ⅱ+B (数研出版) スタディサプリ						

1 学習の到達目標

図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えを理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

2 担当者からのメッセージ (学習方法等)

授業に集中して、授業中にわかる、できるようになりましょう。復習も大切に。
自分で考えてもわからないところ、答えが合わないところはすぐに質問しましょう。
宿題は必ずしましょう。

3 学習評価 (評価基準と評価方法)

観点	I : 知識・技能 (技術)	II : 思考・判断・表現	III : 主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
評 価 方 法	朝テスト 授業中の小テスト 定期考査	授業中の小テスト 定期考査 レポート課題	提出物 レポート課題

法			
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に5段階の評価にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間	図形と方程式	第3章 図形と方程式 第2節 円 第3節 軌跡と領域	○	○	○	座標や式を用いて、円の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できる。 図形を、与えられた条件を満たす点の集合として認識するとともに、不等式を満たす点の集合が座標平面上の領域を表すことを理解し、それらを事象の考察に活用できる。	小テスト 定期考査 提出物 レポート課題
1 学期 期末	三角関数	第4章 三角関数 第1節 三角関数	○	○	○	角の概念を一般角まで拡張して、三角関数に関する様々な性質や式とグラフの関係について多面的に考察できる。	小テスト 定期考査 提出物 レポート課題
2 学期 中間		第4章 三角関数 第2節 加法定理 第5章 指数関数と対数関数 第1節 指数関数 第2節 対数関数	○	○	○	加法定理を理解し、それらを事象の考察に活用できる。 指数関数・対数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できる。	小テスト 定期考査 提出物 レポート課題
2 学期 期末		第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数と導関数 第2節 関数の値の変化	○	○	○	微分係数や導関数の意味について理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できる。 導関数の理解を深めるとともに、導関数の有用性を認識できる。	小テスト 定期考査 提出物 レポート課題
3 学期		第6章 微分法と積分法 第3節 積分法	○	○	○	積分の考えについて理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できる。	小テスト 定期考査 提出物 レポート課題

2024年度 相愛高等学校 2年 普通科 専攻選択コース シラバス

教科	理科	科目	地学基礎	単位数	2	選択等	必修
教科書	「地学基礎」(第一学習社)						
副教材等	「ネオパルノート 地学基礎」(第一学習社)						

1 学習の到達目標

<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境への関心を高め、自ら課題を設定し、見通しをもって観察、実験などを行うことができる、科学的に探究する資質・能力を育てるとともに、地学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的に探究しようとする態度を養う。 ・ 現在の地球の活動について観察、実験などを通して探究し、地球の構造や、プレートの運動と地殻変動や地震・火山などの地球の活動との関連や地球の大気と海洋の働きを理解する。 ・ 地球の現在に至るまでの過程について観察、実験などを通して探究し、太陽系に誕生した惑星としての地球の特徴や、現在までの地球規模の自然環境および生物の変遷を理解する。また、地球の環境と人間生活との関わりについて理解する。
--

2 担当者からのメッセージ (学習方法等)

<p>地学基礎は、基本を覚えて、コツをつかむとわかりやすくなる科目です。地球の歴史と地球についての不思議を学んでいきましょう。復習を丁寧にしていくこと、自主的に問題集に取り組むと、より理解が深まるでしょう。</p>

3 学習評価 (評価基準と評価方法)

観点	Ⅰ：知識・技能 (技術)	Ⅱ：思考・判断・表現	Ⅲ：主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	観察、実験などを通して地学的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 地学的な事物・現象に関する観察、実験の技能を習得するとともに、それらを科学的に探究する方法を身に付けている。	地学的な事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行うとともに、事象を実証的、論理的に考えたり、分析的・総合的に考察したりして、問題を解決し、事実にもとづいて科学的に判断したことを、言語活動を通じて表現する。	地学的な事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究するとともに、科学的態度を身に付けている。
評 価 方 法	定期考査 小テスト・課題 観察や実験活動 表の作成・グラフ作成	定期考査 観察や実験活動 式の利用やグラフ作成 授業中の発言やノートやレポートなどの記述 小テスト・課題	授業中の発言や態度、ノートやレポートなどの内容 授業や単元の振り返りシート の内容

上に示す観点に基づいて、学習のまとめごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間	地球のすがた	第1節 地球の概観 1.地球の形と大きさ	○			・地球の形と大きさについて、関連する歴史や、エラトステネスの測定法による地球の大きさの求め方を学習する。 I：エラトステネスによる測定をもとに、計算によって地球の大きさを求めることができる。 ○ III：地球の形と大きさの測定の歴史について意欲的に学習しようとしている。 ・地球の形や大きさについて学習する。 I：地球楕円体、緯度1°あたりの経線の長さの測量について理解し、知識を身に付けている。 II：地形図を利用した実習を通して、地球の形について考察することができる。 ○ III：地球の形や大きさについて意欲的に学習しようとしている。 ・地球の層構造を学習し、表面と内部の性質の違いを理解する。 I：地球の層構造(地殻・マントル・外核・内核)と、各層の特徴を理解し、知識を身に付けている。 II：地球を構成する元素を示すグラフを判読し、地球内部の構成物質の違いについて考察することができる。 II：岩石と鉄の密度の比較を通して、地球内部の各層の密度の違いについて考察することができる。 ○ III：地球内部の層構造や各層を構成する物質の違いに関心をもち、地球内部のなりたちを意欲的に探究しようとしている。 ・地殻や核を構成する物質の違いについて学習する。 I：地球内部の構成物質の違いによる区	定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度
		2.地球の形の特徴と大きさ	○				
		3.地球の内部構造	○				
		4.地球内部の動き	○				

		<p>第2節 プレーートの運動</p> <p>1. プレーートの分布と運動</p> <p>2. プレーートの境界</p> <p>3. 地殻の変動と地質構造</p>	○	○	<p>分とかたさによる区分の違い、プレートについて理解し、知識を身に付けている。</p> <p>○ III：地球内部の動きに関心を持ち、意欲的に学習しようとしている。</p> <p>・プレートの分布と運動について学習する。</p> <p>I：プレートの分布や種類、プレートの動き、大陸移動説について理解し、知識を身に付けている。</p> <p>○ II：ハワイと日本の距離の変化のグラフを判読し、プレートの運動について考察することができる。</p> <p>○ III：プレートの分布と運動について関心を持ち、意欲的に学習しようとしている。</p> <p>・プレートの境界の特徴について学習する。</p> <p>○ I：3種類のプレートの境界の特徴を理解し、知識を身に付けている。</p> <p>○ II：プレートの境界で形成される大地形について、プレートの運動との関連を考察することができる。</p> <p>○ III：プレートの境界について関心を持ち、意欲的に学習しようとしている。</p> <p>・断層の形式と褶曲について学習する。</p> <p>○ I：断層の種類や褶曲について、形成される条件などの特徴を理解し、知識を身に付けている。</p> <p>○ II：地殻変動について、プレートの運動に関連させて考察することができる。</p> <p>○ II：地層モデルを用いた実験を通して、断層が形成される状況について考察することができる。</p> <p>○ III：断層の形式と褶曲について関心を持ち、地殻の変動のようすを解明する方法を意欲的に習得しようとしている。</p>	
1 学 期 期 末	地 球 の す が	4. 変成作用	○	○	<p>・変成作用と変成岩について学習する。</p> <p>I：広域変成作用と接触変成作用の違いを理解し、知識を身に付けている。</p> <p>○ III：変成作用と変成岩について関心を持ち、プレートの運動と関連させて、意欲</p>	<p>定期考査</p> <p>小テスト</p> <p>課題</p> <p>実験活動</p> <p>授業態度</p>

た 地球 の 活 動	5.大地形の形成	○	○	<p>的に学習しようとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大地形の形成とプレートテクトニクスについて学習する。 <p>I：造山帯の形成、大陸地殻の形成・成長の過程を理解し、知識を身に付けている。</p> <p>II：プレートテクトニクスという概念を理解し、地殻の変動について、プレートの運動によって説明することができる。</p> <p>III：大地形の形成とプレートテクトニクスについて関心をもち、地殻変動とプレートの運動との関係について意欲的に学習しようとしている。</p>	
	第1節 地震				
	1.地震の発生と分布	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・地震の発生と分布の特徴について学習する。 <p>I：地震の発生と分布の特徴について理解し、知識を身に付けている。</p> <p>II：世界の地震分布に関する資料を判読し、地震の分布の特徴を、地下のプレートと関連させて見いだすことができる。</p> <p>III：地震の発生と分布の特徴に関心をもち、地震のおこるしくみについてプレートの運動と関連させて、意欲的に探究しようとしている。</p>	
	2.地震波の伝わり方	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・地震波や震源の決定方法について学習する。 <p>I：地震波や大森公式について理解し、知識を身に付けている。</p> <p>II：大森公式を利用して、初期微動継続時間から震源距離を求めることができる。</p> <p>III：地震波や大森公式に関心をもち、地震のおこるしくみについて意欲的に探究しようとしている。</p>	
	3. 日本付近で発生する地震①	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・日本付近で発生する地震の分布と種類について学習する。 <p>I：日本付近の地震の分布と種類を理解し、知識を身に付けている。</p>	
	4. 日本付近で発生する地震②	○	○	<p>II：日本付近の地震分布に関する資料を用いた実習を通して、地震の分布と地下のプレートとの関連を考察することができる。</p>	
		○	○		

					ついて意欲的に探究しようとしている。	
2 学 期 中 間	地 球 の 活 動 大 気 と 海 洋	5.火成岩の形成	○		・火成岩の産状と組織、火山岩と深成岩の違いについて学習する。 I：火成岩は、産状によって鉱物の形や組織が異なることを理解し、知識を身に付けている。	定期 考 査 小 テ ス ト 課 題 実 験 活 動 授 業 態 度
		6.火成岩の種類	○	○	II：火成岩の組織の観察から、鉱物の形の特徴を見いだすことができ、火山岩や深成岩に分類できる。 III：火成岩の産状、火山岩と深成岩の違いに関心をもち、火成岩のなりたちを意欲的に学習しようとしている。	
		第1節 地球のエネルギー収支	○		・火成岩のおもな造岩鉱物の特徴を学習し、火成岩の分類について理解する。 I：火成岩のおもな造岩鉱物、火成岩の分類、偏光顕微鏡による造岩鉱物の特徴を理解し、知識を身に付けている。	
		1.大気の構成と特徴① 2.大気の構成と特徴②	○	○	II：火成岩の組織と、岩石中に含まれる造岩鉱物の量をもとにして、岩石名を判断することができる。 III：火成岩のおもな造岩鉱物の特徴、火成岩の分類に関心をもち、火成岩のなりたちを意欲的に学習しようとしている。	
		3.対流圏における水の変化	○		・大気の組成と圧力、大気圏の構造について学習する。 I：大気の組成と圧力、大気圏の構造について理解し、知識を身に付けている。 II：高度別の気温のデータから、グラフを作成し、大気圏が高度による気温の変化にもとづいて区分されていることを確認することができる。 III：大気の組成、大気の圧力、大気圏の構造、オゾン層に関心をもち、各種の気象情報を積極的に日常生活に利用しようとしている。 ・大気中の水の変化について学習し、対流圏でおこる現象を理解する。 I：大気中の水の変化と、大気に含まれる水蒸気量と温度の関係を理解し、知識を身に付けている。	

	<p>4.太陽放射と地球放射</p>	○	○	<p>II：飽和水蒸気圧と温度との関係を示すグラフから、相対湿度を計算によって求めることができる。</p> <p>○ III：大気中の水の変化、雲の発生、降水のしくみについて関心をもち、天気の移り変わりのしくみを意欲的に学習しようとしている。</p> <p>・太陽放射と地球放射について理解する。</p> <p>I：太陽放射、太陽定数、地球放射を理解し、知識を身に付けている。</p>	
	<p>5.地球を出入りするエネルギー</p>	○	○	<p>II：太陽放射と地球放射の波長とエネルギーのグラフから、太陽放射と地球放射の違いを確認できる。</p> <p>○ III：太陽放射と地球放射に関心をもち、太陽エネルギーの働きについて意欲的に学習しようとしている。</p> <p>・大気のエネギー収支を理解し、大気の温室効果について考察する。</p> <p>I：大気のエネギー収支、温室効果、放射冷却を理解し、知識を身に付けている。</p>	
	<p>第2節 大気と海水の運動</p> <p>1.エネルギー収支の緯度分布</p>	○	○	<p>○ III：大気のエネギー収支に関心をもち、温室効果のはたらきについて意欲的に学習しようとしている。</p> <p>・緯度ごとのエネルギー収支を学習し、地球における南北の熱の輸送について理解する。</p> <p>I：緯度ごとのエネルギー収支、地球における南北の熱の輸送を理解し、知識を身に付けている。</p>	
	<p>2.風</p>	○	○	<p>II：緯度ごとのエネルギー収支を示すグラフを作成し、グラフから地球の南北の熱の輸送について考察することができる。</p> <p>○ III：緯度ごとのエネルギー収支に関心をもち、大気の大循環について意欲的に学習しようとしている。</p> <p>・風が吹くしくみについて理解する。</p>	

		<p>3.大気の大循環①</p> <p>4.大気の大循環②</p> <p>5.海洋の構造</p>	○		<p>I：風が吹くしくみ、海陸風や季節風の違いを理解し、知識を身に付けている。</p> <p>○ III：風が吹くしくみに関心をもち、海陸風や季節風について意欲的に学習しようとしている。</p> <p>・地球規模の大気の大循環について学習する。</p> <p>I：大気の大循環および、各地域での大気の動きを理解し、知識を身に付けている。</p> <p>○ III：大気の大循環に関心をもち、各地域での大気の動きについて意欲的に学習しようとしている。</p> <p>・海水の組成と温度について学習し、海洋の層構造を理解する。</p> <p>I：海水の組成と温度から、海洋の層構造を理解し、知識を身に付けている。</p> <p>○ II：海面水温の分布に関する資料から、分布の特徴を見いだすことができる。</p> <p>○ III：海水の組成と温度、海洋の層構造について関心をもち、海水の役割について意欲的に学習しようとしている。</p>	
2 学 期 末	大 気 と 海 洋 宇 宙 と 地 球	<p>6.海洋の大循環</p> <p>7.エルニーニョ現象とラニーニャ現象</p>	○	○	<p>・海洋表層の循環と深層に及ぶ循環について学習する。</p> <p>I：海流、深層水の大循環モデルを理解し、知識を身に付けている。</p> <p>○ II：塩水を用いた再現実験を通して、深層に及ぶ循環のしくみについて考察することができる。</p> <p>○ III：海洋表層の循環、深層に及ぶ循環について関心をもち、海水の役割について意欲的に学習しようとしている。</p> <p>・エルニーニョ現象とラニーニャ現象について理解する。</p> <p>I：エルニーニョ現象やラニーニャ現象について理解し、知識を身に付けている。</p> <p>○ II：エルニーニョ現象やラニーニャ現象</p>	<p>定期考査</p> <p>小テスト</p> <p>課題</p> <p>実験活動</p> <p>授業態度</p>

		<p>第2節 太陽系と地球の誕生</p> <p>1.太陽系の構造</p> <p>2.太陽系の誕生①</p> <p>3.太陽系の誕生②</p> <p>4.太陽系の惑星</p> <p>5.生命の惑星・地球</p>	<p>○</p>	<p>○</p>	<p>心もち、地球上にさまざまに影響を与える太陽の活動を意欲的に学習しようとしている。</p> <p>・太陽系の構造と誕生過程について学習する。</p> <p>I：太陽系の構造と誕生過程、地球型惑星と木星型惑星の違いを理解し、知識を身に付けている。</p> <p>II：太陽系の形成時の位置や質量などの違いによって、地球型惑星と木星型惑星の内部構造が違うことを考察できる。</p> <p>III：太陽系を構成する天体やその誕生過程に関心もち、太陽系の成り立ちについて意欲的に学習しようとしている。</p> <p>・太陽系の小天体の特徴について学習する。</p> <p>I：太陽系の小惑星の特徴を理解し、知識を身に付けている。</p> <p>II：木星の衛星の観察を通して、衛星が木星の周りを公転していることを確認できる。</p> <p>III：太陽系の小天体に関心もち、その起源や形成過程について意欲的に学習しようとしている。</p> <p>・太陽系の惑星の特徴について学習し、その違いの要因を理解する。</p> <p>I：地球型惑星と木星型惑星の特徴を理解し、知識を身に付けている。</p> <p>II：それぞれの惑星の環境の違いから、その違いの要因について考察することができる。</p> <p>III：太陽系の惑星に関心もち、惑星の環境を変化させる要因について意欲的に学習しようとしている。</p> <p>・地球に生命が存在する理由について学習する。</p> <p>・原始地球の誕生過程や原始地球の進化について理解する。</p> <p>II：生命が誕生する条件、原始地球の誕生過程や原始地球の進化から地球に生命が存在する理由について理解し、知識を身に付けている。</p>	
--	--	--	---	---	---	--

					○	Ⅲ：地球に生命が存在する理由に関心を持ち、原始地球の誕生過程や進化について意欲的に学習しようとしている。		
3 学 期	生物の変遷と地球環境 地球の環境	第1節 地層と化石						
		1.地層の形成	○				・風化と河川の働きについて学習する。 Ⅰ：風化のしくみや河川の働きから、地層の形成について理解し、知識を身に付けている。	
		2.地層の重なりと広がり	○			○	Ⅲ：風化と河川の働きに関心を持ち、地層の形成過程について意欲的に探究しようとしている。 ・整合と不整合、地層の対比、堆積構造について学習する。 Ⅰ：整合と不整合、地層の対比、堆積構造について理解し、知識を身に付けている。	
		3.堆積岩	○	○	○	○	Ⅲ 地層の重なりや堆積構造などから、過去の変動のようすや堆積環境を調べる方法を意欲的に習得しようとしている。 ・堆積岩の形成、堆積岩の種類について学習する。 Ⅰ：堆積岩の形成、堆積岩の種類を理解し、知識を身に付けている。	定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度
		4.化石と地質時代①	○	○	○	○	Ⅱ：堆積岩の観察を通して、堆積物から堆積岩の種類を判別することができる。 Ⅲ：堆積岩の形成に関心を持ち、堆積環境を調べる方法を意欲的に習得しようとしている。 ・さまざまな化石のでき方、示相化石と示準化石、相対年代と数値年代について学習する。 Ⅰ：さまざまな化石のでき方、示相化石と示準化石、相対年代と数値年代の違いについて理解し、知識を身に付けている。	
5.化石と地質時代②	○				○	Ⅲ：さまざまな化石のでき方、示相化石と示準化石について関心を持ち、地質時代のできごとを解明する方法を意欲的に習得しようとしている。 ・地質時代の区分について学習する。 Ⅰ：地質時代の区分について理解し、知		

		<p>第6章 地球の環境 第2節 日本の自然環境</p> <p>1. 自然の恩恵</p> <p>2. 季節の変化</p> <p>3. 気象災害① 4. 気象災害②</p> <p>5. 地震災害 6. 地震による被害の軽減</p> <p>7. 火山災害と防災</p>	<p>○</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>○ III：オゾン層に関心をもち、オゾン層の変化について意欲的に学習しようとしている。 ・自然エネルギーの利用や日本の資源について学習する。 I：自然エネルギーや日本の資源について理解し、知識を身に付けている。</p> <p>○ III：自然の恩恵について関心をもち、資源としての利用方法を意欲的に学習しようとしている。 ・日本付近の気団や日本の天気の特徴について学習する。 I：日本付近の気団や四季の天気の移り変わりを理解し、知識を身に付けている。</p> <p>○ II：衛星画像と天気図から、日本の特徴的な天気を判読することができる。</p> <p>○ III：気団に関心をもち、四季の天気の移り変わりを意欲的に学習しようとしている。</p> <p>・日本の気象災害や土砂災害とその対策について学習する。 I：日本の気象災害や土砂災害について理解し、その対策などの知識を身に付けている。</p> <p>○ II：気象観測のデータをもとにして、身近な地域での気象災害を予測することができる。</p> <p>○ III：日本の気象災害や土砂災害について関心をもち、それらの対策について意欲的に学習しようとしている。 ・日本の地震災害とその対策について学習する。 I：地震や津波による被害から、その対策について理解し、知識を身に付けている。</p> <p>○ III：地震や津波による被害について関心をもち、その対策について意欲的に学習しようとしている。 ・日本の火山災害とその対策について学習する。</p>	
--	--	--	---	--	---	--

			○	○	○	<p>I : 火山災害とその対策について理解し、知識を身に付けている。</p> <p>II : 火山噴火の際に発生する災害について、ハザードマップから判読することができる。</p> <p>III : 火山の災害について関心をもち、災害の種類やその防災について意欲的に学習しようとしている。</p>	
--	--	--	---	---	---	--	--

2024 年度 相愛高等学校 2年 音楽科 シラバス

教科	理科	科目	科学と人間生活	単位数	2	選択等	必修
教科書	「科学と人間生活」 (第一学習社)						
副教材等	「ネオパルノート 科学と人間生活」 (第一学習社)						

1 学習の到達目標

- ・自然と人間生活とのかかわり、および科学技術が人間生活に果たしてきた役割について、身近な事物・現象に関する観察・実験などを通して理解させ、科学的な見方や考え方を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。
- ・科学技術の発展が、今日の人間生活に対してどのように貢献してきたかについて理解させる。
- ・身近な自然の事物・現象および日常生活や社会の中で利用されている科学技術を取り上げ、科学と人間生活とのかかわりについて認識を深めさせる。
- ・自然と人間生活とのかかわり、および科学技術が人間生活に果たしてきた役割についての学習を踏まえて、これからの科学と人間生活とのかかわり方について考察させる。

2 担当者からのメッセージ (学習方法等)

身近な携帯電話や GPS などに使われる電磁波、ペットボトルなどの素材、太陽や月などの天体、地震や台風などによる災害などを学びます。生活していくうえで必要なことや命に関わることも勉強します。楽しく、真剣に勉強しましょう。

3 学習評価 (評価基準と評価方法)

観 点	Ⅰ：知識・技能 (技術)	Ⅱ：思考・判断・表現	Ⅲ：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	科学技術の発展の人間生活への貢献、身近な事物・現象を通しての現代の人間生活と科学技術の関連性についての知識を身につけ、これからの科学技術と人間生活のあり方について理解する。 また、身近な事物・現象に関する観察、実験の技能を習得するとともに、それらを科学的に探究する方法を身につける。	身近な事物・現象の中に問題を見出し、観察、実験、調査などを行って得た結果について、科学的に思考し、判断する。 そこから導き出した自らの考えを的確に表現する。	身近な事物・現象に関心や探究心をもち、科学的な視点・考察力を養うとともに、科学技術に対する関心を高める態度を身につける。

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・課題 ・観察や実験活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・授業中の発言 ・ノートやレポートなどの記述 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の発言や態度 ・ノートやレポートなどの内容 ・振り返りシートの内容
<p>上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に5段階の評価にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。</p>			

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1学期中間	物質の科学	第1節 材料とその利用	○	○	○	(1) わたしたちの身のまわりにあるプラスチックの特徴と、プラスチックの原料について、概ね理解している。 (2) プラスチックやその原料となる物質は、おもに炭素原子と水素原子からなる有機物であることの知識を身につけている。 (3) プラスチックの性質と用途について、実験・観察などを通して科学的に思考できる。 (4) 熱に対する性質を調べることによって、プラスチックを熱可塑性樹脂と熱硬化性樹脂に分類することができる。	定期考査 課題 発表 授業態度
1学期期末	物質の科学		○	○	○	(1) 金属の利用の歴史から、金属結合とそれにもとづく金属の性質について認識している。 (2) 鉄について、その性質や製錬方法、利用法などについて理解している。 (3) アルミニウムと銅について、その性質や製錬方法、利用法などを、実験・観察を通して科学的に理解している。 (4) 資源の再利用方法に関心を抱き、特にプラスチックがどのように再利用されているかを理解している。 (5) 金属とガラスの再利用を学び、再利	定期考査 課題 発表 授業態度

					用の必要性について科学的に認識する態度を身につけている。	
2 学 期 中 間	熱 や 光 の 科 学	第1節 熱の性質とそ の利用	○ ○ ○	○ ○ ○	(1) セルシウス温度や絶対温度について理解し、熱運動についての知識を身につけている。 (2) 熱平衡の現象と、物体の熱容量と比熱について、実験を通して科学的に理解している。 (3) 熱伝導、対流、熱放射などのしくみについて、実験などを通して理解している。また、水の状態変化と潜熱の概念について知識を習得している。 (4) 仕事とエネルギーと関係、ジュール熱と電力の関係について、物理式を用いながら理解している。 (5) さまざまなエネルギーの形態やエネルギー保存の法則について、関心をもって学習している。 (6) 可逆変化と不可逆変化について理解し、熱機関、永久機関の学習を通して、熱はすべて仕事に変えられないことを科学的に理解している。	
2 学 期 期 末	地 球 や 宇 宙 の 科 学	第1節 自然景観と自然災害	○ ○	○ ○	(1) 身のまわりにある景観に関心を持ち、日本列島の特徴とその成因、日本列島付近のプレートの動きについて科学的に理解している。 (2) 日本列島の火山に興味を抱き、火山の噴火によって噴き出す噴出物、火山の噴火がおこる原因、火山の形とマグマの関連性、および日本の火山活動について、論理的に思考できる。 (3) 火山の災害と防災について意欲的に学習する態度を示し、火山の噴火によって直接およびされる被害や二次災害、火山噴火の予知と防災について、科学的・論理的に理解し、的確に表現できる。 (4) 日本の地震に関心を持ち、地震の発生のしくみや、日本列島の地震活動とプレートとの関連性について、科学的に理	定期 考査 課題 発表 授業 態度

						解している。	
3 学 期	地 球 や 宇 宙 の 科 学	第2節 太陽と地球	○	○	○	<p>(1) 私たちのすむ地球に関心を持ち、地球型惑星と木星型惑星の違い、太陽系外縁天体、小惑星、彗星の特徴について、理解している。</p> <p>(2) 太陽放射と地球放射、地球のエネルギー収支、温室効果について科学的に思考でき、実験結果を通して地球放射のしくみを的確に表現できる。</p> <p>(3) 大気の循環と気候変動の現象の理解を通して、人間生活に恩恵をもたらす太陽について、科学的に理解している。</p> <p>(4) 夜空の星々に関心を持ち、星や太陽を観測するときの天球の概念や、太陽やその他の天体の日周運動について、科学的に理解している。</p> <p>(5) 星座や月の動きに興味を抱き、太陽の年周運動や、月の動きと形の変化について、科学的に理解している。</p> <p>(6) 潮汐について関心を持ち、潮汐がどのようにしておこるかを科学的に概ね理解している。</p>	定期 考査 課題 発表 授業 態度

2024年度 相愛高等学校 2年 普通科 特進コース シラバス

教科	理科	科目	科学と人間生活	単位数	2	選択等	全コース
教科書	高等学校 科学と人間生活 (第一学習社) 新編 化学基礎 (東京書籍)						
副教材等	ネオパルノート化学基礎 (第一学習社) セミナー化学基礎 (第一学習社)						

1 学習の到達目標

<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。 ・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 ・物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

2 担当者からのメッセージ (学習方法等)

<p>理科は「なぜ」の学問です。「なぜそうなるの?」「本当かどうか試してみよう、確かめてみよう」、つまり、WHY から始まり、実験→考察をする姿勢、態度を身に着ける学問だといえます。これから原子やイオンなど、身近な物質や現象について理解を深めていきましょう。</p>

3 学習評価 (評価基準と評価方法)

観点	Ⅰ：知識・技能 (技術)	Ⅱ：思考・判断・表現	Ⅲ：主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	基本的な概念や原理・法則などを理解し、身につける。観察、実験の基本操作を習得し、計画的な実施、結果の記録や整理、資料の活用の仕方を身につける。	自然の事物・現象の中に問題を見出し、見通しを持って観察、実験などを行い、その結果を解釈し、表現する。	自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しを持って振り返ったりするなど、科学的に探究する態度を養う。
評 価 方 法	定期考査 小テスト・課題 観察や実験活動 表の作成・グラフ作成	定期考査 パフォーマンス課題 観察や実験活動 式の利用やグラフ作成 授業中の発言やノートやレポートなどの記述 小テスト・課題	パフォーマンス課題 授業中の発言や態度、ノートやレポートなどの内容 授業や単元の振り返りシート の内容
<p>上に示す観点に基づいて、学習のまとめりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。</p>			

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間	物質の科学	<p>第Ⅰ章 物質の科学</p> <p>第1節 材料とその利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プラスチックの特徴とその分類について、実験を交えながら理解を進める。 ・鉄などの金属の特徴と資源の希少性について学ぶ。 <p>第2節 衣料と食品</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活に身近であり、またとても重要な、繊維と三大栄養素について理解を深める。 	○	○	○	<p>I：いろいろなプラスチックや金属、また繊維や、炭水化物などの栄養素について知識が定着している。</p> <p>II：実験活動により比較検討から考察へと考えを広げることができている。</p> <p>III：クラスメイトと協力して、グループで答えを導き出している。および実験や授業中の態度、提出物。</p>	<p>定期考査</p> <p>小テスト</p> <p>課題</p> <p>実験活動</p> <p>授業態度</p>
1 学期 期末	生命の科学	<p>第Ⅱ章 生命の科学</p> <p>第1節 ヒトの生命現象</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タンパク質、血糖濃度、病原体、免疫について知識を深める。 ・ヒトの目の構造から視覚と体内時計について学ぶ。 <p>第2節 微生物とその利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意外に身近な微生物から学習を開始し、食品との関連、ワクチンなどの医薬品との関連につなげ、バイオテクノロジーへと知識を深めていく。 	○	○	○	<p>I：ヒトの生命現象、微生物についての理解が深まっている。</p> <p>II：微生物などの得た知識をもとに、農業、医療に利用されているテクノロジーについて、その有効性と安全性について考えをめぐらせることができている。</p> <p>III：実験や授業中の態度、提出物</p>	<p>定期考査</p> <p>小テスト</p> <p>課題</p> <p>実験活動</p> <p>授業態度</p>

2 学 期 中 間	熱 や 光 の 科 学	<p>第Ⅲ章 熱や光の科学 第1節 熱の性質とその利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熱運動から熱容量、熱伝導、さらにエネルギーの移り変わりについて学ぶ。 <p>第2節 光の性質とその利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・光の回折、干渉などの性質とその利用について理解を深める。 ・電磁波の種類とその利用について学ぶ。 	○	○	○	<p>I：熱と光についてその性質を理解できている。</p> <p>II：実験活動により比較検討から考察へと考えを広げることができている。</p> <p>III：クラスメイトと協力して、グループで答えを導き出している。および実験や授業中の態度、提出物。</p>	<p>定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度</p>
2 学 期 期 末	地 球 や 宇 宙 の 科 学	<p>第Ⅳ章 地球や宇宙の科学 第1節 自然景観と自然災害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・火山と地震について理解を深め、地震災害への備えについてクラスメイトと話し合う。 ・水害などの気象災害と防災について学ぶ。 <p>第2節 太陽と地球</p> <ul style="list-style-type: none"> ・太陽系や銀河系などさまざまな天体について学ぶ。 ・太陽と人間生活について理解を深める。 ・太陽と月の動き、日食、月食のしくみを再確認する。 	○	○	○	<p>I：地震活動が活発な日本列島について知識理解を深めている。また太陽を始めとする天体の知識が定着している。</p> <p>II：地震に対する備え、太陽との関わりも含めた人間生活、身近な学習から日本を含めた地球に思いを寄せ、考えることができている。</p> <p>III：実験や授業中の態度、提出物</p>	<p>定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度</p>

3 学 期	こ れ か ら の 科 学 と 人 間 生 活	<p>第Ⅴ章 生命の科学</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新機能を備えたプラスチックの開発、発酵食品における微生物の利用、光通信の利用、人工衛星による地球表面の探査、などの課題から研究テーマとして1つ選び、パフォーマンス課題として報告書の作成と研究の発表（プレゼンテーション）を行う。 ・化学基礎の復習 		○	○	<p>Ⅱ：研究課題が発表までたどりつけるようなテーマかどうか、適切な判断ができている。またプレゼンが正確で多彩に表現されている。</p> <p>Ⅲ：興味を持って、選んだ課題に主体的に取り組んでいる。</p>	<p>定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度</p>
-------------	--	---	--	---	---	---	---

2024年度 相愛高等学校 2年 普通科 特進コース シラバス

教科	理科	科目	生物基礎	単位数	2	選択等	必修
教科書	「新編 生物基礎」(数研出版)						
副教材等	「新編 生物基礎 サポートノート」(数研出版) 「リードLight 生物基礎」(数研出版)						

1 学習の到達目標

- ・生物学が日常生活や社会と深く結びついていること実感し、理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身につける。
- ・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- ・生徒同士がコミュニケーションを図り、対話的に学習する力を養う。

2 担当者からのメッセージ (学習方法等)

生物基礎は、細胞のようなミクロな視点から生態系のようなマクロな視点で物事をとらえる科目です。生物の不思議を、一緒に考えて、解明していきましょう。

3 学習評価 (評価基準と評価方法)

観点	Ⅰ：知識・技能 (技術)	Ⅱ：思考・判断・表現	Ⅲ：主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	基本的な概念や原理・法則などを理解し、身につける。観察、実験の基本操作を習得し、計画的な実施、結果の記録や整理、資料の活用の仕方を身につける。	自然の事物・現象の中に問題を見出し、見通しを持って観察、実験などを行い、その結果を解釈し、表現する。	自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しを持って振り返ったりするなど、科学的に探究する態度を養う。
評 価 方 法	定期考査 小テスト・課題 観察や実験活動 表の作成・グラフ作成	定期考査 パフォーマンス課題 観察や実験活動 式の利用やグラフ作成 授業中の発言やノートやレポートなどの記述 小テスト・課題	授業中の発言や態度、ノートやレポートなどの内容 授業や単元の振り返りシート の内容

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間	生物の多様性と生態系	<p>第1節 植生と遷移</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな植生とその特徴を理解する。 ・植生の遷移の過程と、遷移が進行する要因について理解する。 ・身近な植生にはどのような特徴をもつものがあるかを調べる。 ・遷移の過程を示した資料をもとに、遷移の過程で裸地から低木林に移り変わる要因、植生の樹種が交代する要因について理解する。 	○	○	○	<p>I：いろいろな植生とその特徴を理解している。</p> <p>植生の遷移の過程と、遷移が進行する要因について理解している。</p> <p>II：遷移の過程を示した資料をもとに、遷移の過程で裸地から低木林に移り変わる要因、植生の樹種が交代する要因について考察し、説明できる。</p> <p>長い年月をかけて進行する植生の遷移を調べるには、どのような方法が考えられるか、自分の考えをまとめることができる。</p> <p>III：授業中の態度、提出物</p>	定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度
		<p>第2節 植生の分布とバイオーム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界および日本に見られるさまざまなバイオームが、気温と降水量の違いに起因して成立していることを理解する。 ・日本の各地域でどのようなバイオームが成立する可能性があるかを推測する。 ・気温・降水量と陸上のおもなバイオームの関 	○	○	○	<p>I：世界および日本に見られるさまざまなバイオームが、気温と降水量の違いに起因して成立していることを理解している。</p> <p>II：日本の各地域でどのようなバイオームが成立する可能性があるかを推測し、表現できる。</p> <p>気温・降水量と陸上のおもなバイオームの関係を示した資料をもとに、森林・草原・荒原のいずれになるかを定める要因に気づき、説明できる。</p> <p>日本の気候の特徴をもとに、日本に分布するバイオームについて考察し、説明できる。</p>	

		<p>係を示した資料をもとに、森林・草原・荒原のいずれになるかを定める要因を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の気候の特徴をもとに、日本に分布するバイオームについて理解する。 ・標高の高い場所で森林が見られない理由を理解する。 			<p>標高の高い場所で森林が見られない理由を考察し、説明できる。</p> <p>Ⅲ：授業中の態度、提出物</p>		
1 学 期 末	<p>生物の多様性と生態系</p>	<p>第3節 生態系と生物の多様性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生態系がどのように構成されているのかを理解する。 ・生態系において種多様性が維持されるしくみを理解する。 ・身近な土壤に生息している生物の種類を確かめる。 ・生態系における個体数の変化を調べた実験結果に基づき、ある生物が種多様性に対して果たす役割を考察し、理解する。 <p>第4節 生態系のバランスと保全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生態系のバランスが保たれているとはどのような状態かを理解する。 ・生態系の保全のために、どのような活動が行われているかを理解 	○	○	○	<p>Ⅰ：生態系がどのように構成されているのかを理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生態系において種多様性が維持されるしくみを理解している。 <p>Ⅱ：身近な土壤に生息している生物の種類を確かめ、表現できる。</p> <p>生態系における個体数の変化を調べた実験結果に基づき、ある生物が種多様性に対して果たす役割を考察し、説明できる。</p> <p>Ⅲ：授業中の態度、提出物</p>	<p>定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度</p>
			○	○	○	<p>Ⅰ：生態系のバランスが保たれているとはどのような状態かを理解している。</p> <p>生態系の保全のために、どのような活動が行われているかを理解している。</p> <p>Ⅱ：水質と生息する生物の関係について考察し、表現できる。</p> <p>生活排水の流入による生物の個体数と</p>	

		<p>する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水質と生息する生物の関係について考察する。 ・生活排水の流入による生物の個体数と水質の変化のグラフをもとに、自然浄化のしくみを考察し、理解する。 ・外来生物の移入前後の在来魚の漁獲量の変化を示した資料をもとに、外来生物が在来魚に与えた影響を考察し、理解する。 				<p>水質の変化のグラフをもとに、自然浄化のしくみを考察し、説明できる。</p> <p>外来生物の移入前後の在来魚の漁獲量の変化を示した資料をもとに、外来生物が在来魚に与えた影響を考察し、説明できる。</p> <p>生態系への影響が予想される開発行為について、さまざまな観点・立場で考え、話し合い、解決策を模索することができる。</p> <p>Ⅲ：授業中の態度、提出物</p>	
2 学 期 中 間	生 物 の 特 徴	<p>第2節 エネルギーと代謝</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生命活動にはエネルギーが必要であり、そのエネルギーはATPから供給されていることを理解する。 ・ATPが生命活動にエネルギーを供給するしくみについて理解する。 ・「1日の消費エネルギーの算出」を行い、自分自身が1日で消費するエネルギーの量を知る。 <p>第3節 呼吸と光合成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・呼吸・光合成の過程でATPが合成されることを理解する。 ・酵素の触媒作用と基質特異性について理解 	○	○	○	<p>Ⅰ：生命活動にはエネルギーが必要であり、そのエネルギーはATPから供給されていることを理解している。</p> <p>ATPが生命活動にエネルギーを供給するしくみについて理解している。</p> <p>Ⅱ：ヒトがエネルギーを取り入れる方法について説明できる。</p> <p>Ⅲ：授業中の態度、提出物</p>	<p>定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度</p>
		<p>呼吸と光合成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・呼吸・光合成の過程でATPが合成されることを理解する。 ・酵素の触媒作用と基質特異性について理解 	○	○	○	<p>Ⅰ：呼吸・光合成の過程でATPが合成されることを理解している。</p> <p>酵素の触媒作用と基質特異性について理解している。</p> <p>生体内の化学反応が、酵素のはたらきによって進行していることを理解してい</p>	

		<p>する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生体内の化学反応が、酵素のはたらきによって進行していることを理解する。 				<p>る。</p> <p>II：カタラーゼの触媒作用によって過酸化水素の分解が促進されることについて、対照実験との比較に基づいて考察できる。</p> <p>植物が有機物を得る方法について説明できる。</p> <p>III：授業中の態度、提出物</p>	
2 学 期 期 末	遺 伝 子 と そ の は た ら き	<p>第1節 遺伝情報と DNA</p> <ul style="list-style-type: none"> ・DNA の構造および塩基の相補性を理解する。 ・DNA の塩基配列が遺伝情報となっていることを理解する。 ・DNA の構造の模式図をもとに、DNA が4種類の塩基からなること、塩基の結合は A と T、G と C の間で起こるといふ規則性を理解する。 <p>第2節 遺伝情報の複製と分配</p> <ul style="list-style-type: none"> ・DNA が半保存的複製という方法によって正確に複製されることを理解する。 ・体細胞分裂の過程で DNA が複製され、分配されることを理解する。 ・複製前後の DNA の模式図を比較し、DNA の正確な複製には塩基の相補性が利用されていることを理解する。 	○	○	○	<p>I：DNA の構造および塩基の相補性を理解している。</p> <p>DNA の塩基配列が遺伝情報となっていることを理解している。</p> <p>DNA の塩基配列にはさまざまなパターンが生じることを理解している。</p> <p>II：生物の細胞内に含まれる DNA を抽出できる。</p> <p>DNA の構造の模式図をもとに、DNA が4種類の塩基からなること、塩基の結合は A と T、G と C の間で起こるといふ規則性に気づき、説明できる。</p> <p>III：授業中の態度、提出物</p>	<p>定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ・各時期の細胞数の割合から細胞周期における各時期の時間を推定できることを理解する。 <p>第3節 遺伝情報の発現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・DNAの遺伝情報をもとにタンパク質が合成される、転写・翻訳の過程を理解する。 ・分化した細胞では、細胞ごとに異なる遺伝子が発現していることを理解する。 ・アミノ酸配列と、それを指定するDNAの塩基配列を示した資料をもとに、塩基3個がアミノ酸1個に対応していること、塩基3個の配列が同じであれば同じアミノ酸が指定されることを理解する。 ・同じ遺伝情報をもつ受精卵から、異なる形やはたらきをもつ細胞が分化することを理解する。 	○	○	○	<p>I：DNAの遺伝情報をもとにタンパク質が合成される、転写・翻訳の過程を理解している。</p> <p>分化した細胞では、細胞ごとに異なる遺伝子が発現していることを理解している。</p> <p>II：アミノ酸配列と、それを指定するDNAの塩基配列を示した資料をもとに、塩基3個がアミノ酸1個に対応していること、塩基3個の配列が同じであれば同じアミノ酸が指定されることに気づき、説明できる。</p> <p>同じ遺伝情報をもつ受精卵から、異なる形やはたらきをもつ細胞が分化することに気づき、説明できる。</p> <p>III：授業中の態度、提出物</p>	
3 学 期	ヒ ト の 体 内 環 境 の 維	<p>第1節 体内での情報伝達と調節</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体内での情報伝達が、からだの状態の調節に関係していることを理解する。 ・自律神経系と内分泌系が、からだを調節す 	○	○	○	<p>I：体内での情報伝達が、からだの状態の調節に関係していることを理解している。</p> <p>自律神経系と内分泌系が、からだを調節するしくみを理解している。</p> <p>II：運動によって心拍数が増加するしくみを考察し、説明できる。</p> <p>運動によってからだに変化が起こった</p>	<p>定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度</p>

持	<p>るしくみを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動によって心拍数が増加するしくみを理解する。 ・運動によってからだに変化が起こった理由を考察する。 <p>第2節</p> <p>体内環境の維持のしくみ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自律神経系と内分泌系のはたらきによって血糖濃度が調節されるしくみを理解する。 ・糖尿病の原因を理解する。 ・健康な人の食事の前後における血糖濃度・インスリン濃度のグラフをもとに、血糖濃度とインスリン分泌の関係を理解する。 ・健康な人と糖尿病患者の食後の血糖濃度・インスリン濃度のグラフの比較に基づいて、糖尿病患者の血糖濃度が低下しない理由を理解する。 <p>第3節</p> <p>免疫のはたらき</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然免疫・適応免疫のしくみと、それにはたらく細胞の役割を理解する。 ・免疫記憶のしくみを理解する。 ・免疫のはたらきが低 	○	○	○	<p>理由を考察できる。</p> <p>Ⅲ：授業中の態度、提出物</p> <p>Ⅰ：自律神経系と内分泌系のはたらきによって血糖濃度が調節されるしくみを理解している。</p> <p>糖尿病の原因を理解している。</p> <p>Ⅱ：健康な人の食事の前後における血糖濃度・インスリン濃度のグラフをもとに、血糖濃度とインスリン分泌の関係に気づき、説明できる。</p> <p>健康な人と糖尿病患者の食後の血糖濃度・インスリン濃度のグラフの比較に基づいて、糖尿病患者の血糖濃度が低下しない理由を考察し、説明できる。</p> <p>Ⅲ：授業中の態度、提出物</p> <p>Ⅰ：自然免疫・適応免疫のしくみと、それにはたらく細胞の役割を理解している。</p> <p>免疫記憶のしくみを理解している。</p> <p>免疫のはたらきが低下したり過敏になったりすることで起こる病気や、免疫のしくみを利用した医療について理解している。</p>	
---	--	---	---	---	--	--

	<p>下したり過敏になったりすることで起こる病気や、免疫のしくみを利用した医療について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・細菌に感染した部位の顕微鏡写真をもとに、免疫のはたらきを考察する。 ・同じ抗原が2回体内に侵入したときの抗体産生量のグラフから、抗体産生の速さや抗体量の違いを読み取り、理解する。 	○	○	○	<p>Ⅱ：細菌に感染した部位の顕微鏡写真をもとに、免疫のはたらきを考察できる。同じ抗原が2回体内に侵入したときの抗体産生量のグラフから、抗体産生の速さや抗体量の違いを読み取り、説明できる。</p> <p>免疫の学習内容をもとに、未知の病原体に対する免疫のはたらきを考察し、自分の考えを述べることができる。</p> <p>Ⅲ：授業中の態度、提出物</p>	
--	--	---	---	---	--	--

前期	旋律聴音	高音部譜表 低音部譜表 (ト長調、ホ短調、 ヘ長調、ニ短調) 拍子 4分の4拍子 4分の3拍子 8分の6拍子	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	I : 音楽を聴いて音高、リズム、音程などを正しく把握し、音楽を形作っている要素の働き、効果などを理解する。 音楽を形づくっている要素を正しく聴き取り、それを記譜することができる。 II : 音楽を形づくっている要素の働きやその効果などを思考・判断している。 III : 旋律やリズムなどを捉えて記譜することに留まらず、音楽性豊かな表現の追求に主体的・協働的に活用しようと意欲的である。	・学習状況 ・定期考査 ・発問への対応
	複旋律・和音聴音	2声旋律聴音 大譜表 (ト長調、ホ短調、 ヘ長調、ニ短調) 拍子 4分の4拍子 4分の3拍子 8分の6拍子 4声体和音聴音 大譜表 (ハ長調) 密集配置・開離配置 拍子 2分の2拍子	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○		
後期	旋律聴音	高音部譜表 低音部譜表 (ニ長調、ロ短調、 変ロ長調、ト短調) 拍子 4分の4拍子 4分の3拍子 8分の6拍子	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	I : 音楽を聴いて音高、リズム、音程などを正しく把握し、音楽を形作っている要素の働き、効果などを理解する。 音楽を形づくっている要素を正しく聴き取り、それを記譜することができる。 II : 音楽を形づくっている要素の働きやその効果などを思考・判断している。 III : 旋律やリズムなどを捉えて記譜することに留まらず、音楽性豊かな表現の追求に主体的・協働的に活用しようと意欲的である。	・学習状況 ・定期考査 ・発問への対応
	複旋律・和音聴音	2声旋律聴音 大譜表 (ニ長調、ロ短調、 変ロ長調、ト短調) 拍子 4分の4拍子 4分の3拍子 8分の6拍子	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○		

	4 声体和音聴音 大譜表（ハ長調） 密集配置・開離配置 拍子 2分の2拍子	○	○	○		
--	---	---	---	---	--	--

2024 年度 相愛高等学校 2 年 音楽科 シラバス

教科	音楽専門	科目	ソルフェージュⅡ	単位数	1	選択等	必修
教科書	コールユーブンゲン（大阪開成館発行）						
副教材等	視唱ステップアップ（全音楽譜出版社）、新曲視唱用プリント						

1 学習の到達目標

- ・基礎的なソルフェージュ力の充実を図る。
- ・音感やリズム感を養い、読譜力の向上につなげる。
- ・正しい音程を身に付け、また音程を正しく聴き取る力を培う。
- ・新曲視唱では素早く読譜し、正確に視唱できる力を養う。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

個人のレベルに合わせたグループレッスンを行います。コールユーブンゲンや新曲視唱で歌唱力、正しい音感やリズム感を養ってください。それらは専攻実技も含め、全ての音楽専門教科に通じます。不得意な場合も諦めず、続けて努力していきましょう！きっと多くの知識と能力が身につくはずですよ。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	Ⅰ：知識・技能（技術）	Ⅱ：思考・判断・表現	Ⅲ：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	譜表に書かれた楽譜を見て、音楽を形づくっている要素を正しく読み取り、正確な音程やリズムで歌うことができる。また、旋律やフレーズのまとまりなど様々な情報を読み取り、歌唱に活かすことができる。	音高や音程、リズムなどを正しく把握し、旋律における音のまとまりや方向性やフレーズのまとまり、自然な抑揚といった豊かな表現をもって歌うことができる。	音高やリズムを正しく表現できるといった基本的なことに留まらず、音楽性豊かな表現の追求に活用しようとする意欲的である。
評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・実技試験 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・実技試験 ・発問への対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・発問への対応

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
前期	変種長調	コールユーブンゲン No.54～66 Ges dur, Des dur, As dur, Es dur, B dur, F dur	○	○	○	<p>I：各変種長調の和音や和声をよく感じながら、正確な音程やリズムで歌うことができる。また、変種長調の音感を取得し、それらを踏まえながら臨時記号にも対応し、正確に歌唱することができる。</p> <p>II：旋律における音のもつ方向性やフレーズのまとまり、自然な抑揚などを表現できる。</p> <p>III：音程やリズムを正しく歌うことができるといった基本的なことに留まらず、音楽性豊かな表現を目指そうと意欲的である。また、新曲視唱では F dur、d moll の調性を中心にさまざまな種類の曲を自発的に取り組める。</p>	<p>実技試験 学習態度 練習状況 発問の反応</p>
		新曲視唱 F dur, d moll	○	○	○		
後期	転調と短調	コールユーブンゲン No.67～77 c moll, g moll, d moll, a moll, e moll	○	○	○	<p>I：各調の和音や和声をよく感じながら、正確な音程やリズムで歌うことができる。また、各調における音階や和声を踏まえながら臨時記号にも対応し、正確に歌唱することができる。</p> <p>II：旋律における音のもつ方向性やフレーズのまとまり、自然な抑揚などを表現できる。</p> <p>III：音程やリズムを正しく歌うことができるといった基本的なことに留まらず、音楽性豊かな表現を目指そうと意欲的である。また、新曲視唱では D dur、h moll、B dur、g moll の調性を中心にさまざまな種類の曲を自発的に取り組める。</p>	<p>実技試験 学習態度 練習状況 発問の反応</p>
		新曲視唱 D dur, h moll B dur, g moll	○	○	○		

2024 年度 相愛高等学校 2 年 音楽科 シラバス

教科	音楽専門	科目	演奏研究	単位数	1	選択等	必修
教科書	なし						
副教材等	楽譜プリント等。						

1 学習の到達目標

<ul style="list-style-type: none"> ・既製の曲を演奏するだけでなく、楽器・組み合わせなどに応じた曲のアレンジを行い、音楽に対する理解を深める。 ・本校独自の編曲によるオーケストラ演奏に取り組み、皆で合奏することを経験し勉強する。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

<p>各グループに分かれて授業を行います。自分の専攻だけではなく、他専攻について学習し、共に曲の理解を深め、演奏表現を高めていってほしいと思います。</p>
--

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	Ⅰ：知識・技能（技術）	Ⅱ：思考・判断・表現	Ⅲ：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	楽曲に相応しい奏法で演奏することができ、正しい身体の使い方ができる。また、音程・テンポ・リズム・強弱などの楽譜に書かれている要素を正確に読み取り、忠実に演奏することができる。	音楽の構造を分析し、フレーズや楽曲全体をどのように表現するか考えて演奏できる。また、楽曲の文化的・歴史的背景や様式をふまえた総合的な演奏表現ができる。時代や地域、作曲家、声や楽器の表現上の特徴をふまえて作品を解釈し、音楽を形づくっている要素を活かしながら様式等に則した演奏を追求するとともに、解釈の多様性を学ぶことができる。	楽曲の文化的・歴史的背景や様式を考察し、作品における解釈を演奏に結びつけながら表現しようとする意欲的である。生徒同士のアンサンブルにおいては、積極的に意見交換するなど互いの考えを尊重し、主体的・協働的に表現力を高め合おうとする意欲的である。
評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・実技試験 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・実技試験 ・発問への対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・発問への対応

上に示す観点に基づいて、学習のまとめごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
前期	合奏	合奏 サン＝サーンス作曲 「動物の謝肉祭」 定期演奏会曲目オーケストラ・合唱の練習。 各楽器パートの練習から取り組み、合奏に結びつける。	○	○	○	<p>I：それぞれの楽曲に相応しい奏法で演奏することができ、正しい身体の使い方ができる。また、音程・テンポ・リズム・強弱などの楽譜に書かれている要素を正確に読み取り、忠実に演奏することができる。</p> <p>II：音楽の構造を分析し、フレーズや楽曲全体をどのように表現するか考察できる。また、楽曲の文化的・歴史的背景や様式をふまえた総合的な演奏表現ができる。</p> <p>III：生徒同士のパート練習においては、積極的に意見交換するなど互いの考えを尊重し、表現力を高め合おうと意欲的である。</p>	実技試験 学習態度 練習状況 発問の反応
後期	室内楽	室内楽 グループごとに演奏表現を高める。楽曲背景も反映させながら、他者と合わせる力を身に付ける。 授業内で公開実技試験を行う。	○	○	○	<p>I：それぞれの楽曲に相応しい奏法で演奏することができ、正しい身体の使い方ができる。また、音程・テンポ・リズム・強弱などの楽譜に書かれている要素を正確に読み取り、忠実に演奏することができる。</p> <p>II：音楽の構造を分析し、フレーズや楽曲全体をどのように表現するか考察できる。また、楽曲の文化的・歴史的背景や様式をふまえた総合的な演奏表現ができる。</p> <p>III：生徒同士のアンサンブルにおいては、積極的に意見交換するなど互いの考えを尊重し、表現力を高め合おうと意欲的である。</p>	実技試験 学習態度 練習状況 発問の反応

2024年度 相愛高等学校 2年 音楽科 シラバス

教科	音楽専門	科目	音楽史	単位数	1	選択等	必修
教科書	音楽史を学ぶ 古代ギリシャから現代まで (教育芸術社)						
副教材等	担当作成課題プリント、CD、YouTube 等						

1 学習の到達目標

日本を含む諸外国の音楽の歴史について理解を深め、音楽の文化的価値を認識し、そのことにより広い視野で芸術をとらえる能力を養う。日頃の演奏活動と大いに関係のある作曲家や作品はもとより、そこに至るまでの先駆者的作曲家や音楽様式を振り返ることにより、自らの音楽的想像力を身に付ける。

2 担当者からのメッセージ (学習方法等)

各時代がもつ特徴や様式を学習することで、日頃の鑑賞や演奏に大いにそれらを役立てて欲しい。また、諸外国に目を向け、それぞれの国民性の上に立つ音楽について理解を深め、民族音楽への関心も深めてほしいと考えています。

3 学習評価 (評価基準と評価方法)

観点	Ⅰ：知識・技能 (技術)	Ⅱ：思考・判断・表現	Ⅲ：主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	西洋音楽・日本音楽の歴史についての基本的な事柄に関する知識を生かして音楽の諸要素を感じ取り、作曲家と作品の価値を理解する能力を身に付けている。	音楽の発展の歴史を思考し、各時代における様式を正しく判断する力とそれらを言葉や文章で表現することができる。	西洋音楽・日本音楽の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求し、主体的に学習に取り組もうとする。
評 価 方 法	定期考査 課題プリント	プレゼン課題への取り組み ノート内の思考・判断・表現	発問への反応・発言 定期考査による主体性の深まりの確認
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 Ⅰ：知識・技能 Ⅱ：思考・判断・表現 Ⅲ：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間	古代・中世・ルネサンスの音楽概説	<ul style="list-style-type: none"> ・古代ギリシャ・中世・ルネサンス時代概説。 ・音楽史上の重要な事柄と語句。 例としてポリフォニー、モノフォニー、ミサやオラトリオ等 	○ ○ ○	○ ○	○ ○	<p>I.古代から中世・ルネサンスに至る歴史において、ヨーロッパの芸術特に音楽と関連のある事柄を知り、具体的な内容を理解することが出来る。</p> <p>II.各時代の様式についての必要な資料を収集した後、分析し、有用な情報を選択して読み取り、重要事項をまとめたり、文章として表現したりすることができる。</p> <p>III.古代から中世・ルネサンスに至る音楽の歴史に対する関心と課題意識を高め、その中でも教会音楽（宗教音楽）とのつながりについて自らが主体的に学習に取り組もうとしている。</p>	学習態度 定期考査 発問の反応 課題
1 学期 期末	バロック	<ul style="list-style-type: none"> ・ヴィヴァルディの作品とその特徴 ・バッハとヘンデルの作品とその特徴 	○ ○ ○	○ ○	○ ○	<p>I.バロック音楽の歴史的背景を知り、音楽の諸要素をとおしてヴィヴァルディ、バッハ、ヘンデルの作品の価値を理解することができる。</p> <p>II.ヴィヴァルディ、バッハ、ヘンデルについての必要な資料を収集した後、分析し、有用な情報を選択して読み取り、重要事項をまとめたり、文章として表現したりすることができる。</p> <p>III.バロック音楽の歴史に対する関心と課題意識を高め、ヴィヴァルディやバッハ、ヘンデルの業績について自らが主体的に学習に取り組もうとしている</p>	学習態度 定期考査 発問の反応 課題
2 学期 中間	古典派	ウィーン古典派の音楽（ハイドン、モーツァルト）	○	○	○	<p>古典派の音楽の歴史を意欲的に考察し、音楽への関心を高めようとしている。</p> <p>事例の考察に必要な資料を収集し、有用な情報を選択して読み取り、重要事項をまとめている。</p> <p>古典派の時代の歴史とその音楽様式とのつながりについて関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。</p>	学習態度 定期考査 発問の反応 課題

2 学 期 末	古典派	<ul style="list-style-type: none"> ・ソナタとソナタ形式 ・ソナタの楽器編成とその名称 	○ ○ ○	○ ○ ○	<p>I.古典派の代表的なソナタとソナタ形式を知り、それらの持つ諸要素をとおしてその音楽作品の価値を理解することができる。</p> <p>II.古典派の代表的なソナタについての必要な資料を収集した後、分析し、有用な情報を選択して読み取り、重要事項をまとめたり、文章として表現したりすることができる。</p> <p>III.多様なソナタ作品への関心と課題意識を高め、その構成と形式の重要性について自らが主体的に学習に取り組もうとしている。</p>	学習態度 定期考査 発問の反応 課題
3 学 期	古典派	ベートーヴェンの生涯、作品とその特徴	○ ○	○ ○	<p>ベートーヴェンの生涯を意欲的に考察し、その音楽への関心を高めようとしている。</p> <p>事例の考察に必要な資料を収集し、有用な情報を選択して読み取り、重要事項をまとめている。</p> <p>ベートーヴェンの作品とその特徴について知識を深め、作品内容を理解している。</p>	学習態度 定期考査 発問の反応 課題

1 学 期 中 間	予 備 知 識 ・ 基 本 位 置	予備知識（楽典の知識 の確認） 基本位置 3 和音の配置 と連結 和音設定の原理	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	1 年時の楽典で培った和音の知識を確認 する。 和声法の基本となる音域や配置につい て学び知識を得るとともに実践する。 基本位置 3 和音の配置と連結を学び、実 践する。	学習態度 定期考査 発問の反応 課題
1 学 期 期 末	各 種 の 調	和音設定の確立 各種調による実践	○ ○	○ ○	○ ○	和音の設定方法を確立する。 まず、C dur で配置連結できることを確 認し、さまざまな調でも実践する。	学習態度 定期考査 発問の反応 課題
2 学 期 中 間	第 一 転 回 位 置	3 和音の第一転回位置 の配置と連結 各種調による実践	○ ○	○ ○	○ ○	基本位置の配置連結できることを確認 しつつ、第一転回位置の和音を組み入れ て課題を実践する。	学習態度 定期考査 発問の反応 課題
2 学 期 期 末	第 二 転 回 位 置	3 和音の第二転回位置 の定型と連結 各種調による実践	○ ○	○ ○	○ ○	特殊な使い方をする第二転回位置の定 型を理解する。 これまでの課題にこれを組み入れて実 践する。	学習態度 定期考査 発問の反応 課題
3 学 期	属 七 の 和 音	属七の和音の配置と連 結 各種調による実践	○ ○	○ ○	○ ○	属七の和音の特性を知り、使い方を理解 する。まずは定型を覚え、これまでの課 題に組み入れられるように実践する。	学習態度 定期考査 発問の反応 課題

2024 年度 相愛高等学校 2年 音楽科 シラバス

教科	音楽専門	科目	合唱	単位数	2	選択等	必修
教科書	なし						
副教材等	楽譜プリント等。						

1 学習の到達目標

一緒に声を聴きあいながらハーモニーや音楽をすることで音楽的協調性を養う。演奏会本番での発表に向けて、生徒同士の意見交換をしながら曲を仕上げていくことで、演奏するだけでなく、練習課程の大切さを学ぶ。また、音楽の表現に必要な呼吸や歌詞の意味をどう表現に活かすのかを習得することで、技術や感性を養う。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

授業で取り扱う楽曲が皆の心に響くよう、また合唱の素晴らしさと楽しさを感じて貰えたらと願っています。表現の仕方や呼吸は合唱だけでなく、自身の専攻の演奏にも通じるところがたくさんあると思いますので、ぜひ活かしてください。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観点	Ⅰ：知識・技能（技術）	Ⅱ：思考・判断・表現	Ⅲ：主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	発声や発音など正しい身体の使い方ができる。また、音程・テンポ・リズム・強弱などの楽譜に書かれている要素を正確に読み取り、演奏に活かすことができる。 互いの声や響きをよく聴いて感じ、ハーモニーを作ることができる。	音楽の構造を分析し、フレーズや楽曲全体をどのように表現するか考えて演奏できる。歌詞の内容をふまえて、音楽表現を考察し、楽曲により相応しい歌唱を目指すことができる。声や伴奏の表現上の特徴をふまえて作品を解釈し、音楽を形づけている要素を活かしながら演奏を追求するとともに、表現の多様性を学ぶことができる。	演奏発表の場を年に数回設け、その発表に向けて周りとの協力しながら積極的に作品に向き合う意欲がある。練習中においては、意見交換するなど互いの考えを尊重し、主体的・協働的に表現力を高め合おうと意欲的である。
評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・実技試験 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・実技試験 ・発問への対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・発問への対応

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評

定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
前期	ピース大阪・定期演奏会合唱曲	<ul style="list-style-type: none"> ピース大阪演奏曲 「Every day, Happy day」 「瑠璃色の地球」 「上を向いて歩こう」 「ふるさと」 定期演奏会 「青い鳥」 「相愛学園歌」 	○ ○	○ ○	○ ○	<p>I：音楽の構造を分析し、フレーズや楽曲全体をどのように表現するか考えて演奏できる。発声や発音など正しい身体の使い方ができる。また、音程・テンポ・リズム・強弱などの楽譜に書かれている要素を正確に読み取り、演奏に活かすことができる。互いの声や響きをよく聴いて感じ、ハーモニーを作ることができる。</p> <p>II：歌詞の内容をふまえて、音楽表現を考察し、声や伴奏の表現上の特徴をふまえて作品を解釈し、音楽を形づくっている要素を活かしながら表現できる。</p> <p>III：演奏会での演奏曲では、発表に向けて周りとは協力しながら積極的に作品に向き合おうという意欲がある。練習中においては、意見交換するなど互いの考えを尊重し、表現力を高め合おうと意欲的である。</p>	実技試験 学習態度 練習状況 発問の反応
後期	乙女コンサート・模範演奏曲・アカペ	<ul style="list-style-type: none"> 乙女コンサート コーラスコンクール 模範演奏曲 その他、アカペラなどを中心とした合唱曲 	○ ○	○ ○	○ ○	<p>I：音楽の構造を分析し、フレーズや楽曲全体をどのように表現するか考えて演奏できる。発声や発音など正しい身体の使い方ができる。また、音程・テンポ・リズム・強弱などの楽譜に書かれている要素を正確に読み取り、演奏に活かすことができる。互いの声や響きをよく聴いて感じ、ハーモニーを作ることができる。</p> <p>II：歌詞の内容をふまえて、音楽表現を</p>	実技試験 学習態度 練習状況 発問の反応

					<p>考察し、声や伴奏の表現上の特徴をふまえて作品を解釈し、音楽を形づくっている要素を活かしながら表現できる。</p> <p>Ⅲ：コーラスコンクール模範演奏曲では、発表に向けて周りとは協力しながら積極的に作品に向き合おうという意欲がある。練習中においては、意見交換するなど互いの考えを尊重し、表現力を高め合おうと意欲的である。</p>	
--	--	--	--	--	---	--

2024 年度 相愛高等学校 2年 音楽科 シラバス

教科	外国語 (英語)	科目	英語 コミュニケーションⅡ	単位数	5	選択等	必修
教科書	Grove English Communication II (文英堂)						
副教材等	Grove English Communication II 授業ノート (文英堂) Grove English CommunicationⅡ ワークブック (文英堂) 英単語ターゲット 1400 (旺文社) Dual Scope English Grammar in 22 stages (数研出版) Dual Scope English 総合英語 (数研出版) オンライン英会話 Chatty						

1 学習の到達目標

英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深め、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことにおいて、使用される語句や文などにおいて、多くの支援を活用することによって、表現できる力を身に付ける。

2 担当者からのメッセージ (学習方法等)

英語に接する時間が長ければ長いほど、力がつきます。
 予習を必ずしましょう。
 家庭学習として、英語を声に出して、発音練習を繰り返しましょう。
 意味のわからない単語があったら、どんどん辞書で意味調べをしましょう。

3 学習評価 (評価基準と評価方法)

観点	I : 知識・技能 (技術)	II : 思考・判断・表現	III : 主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	外国語の4技能(話す、書く、読む)について、実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識・技能を身に付けている。外国語の働きや役割などを理解している。	場面・目的・状況に応じて、日常的话题から時事問題や社会問題まで幅広い話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝え合ったりしている。聞いたり読んだりしたことなどを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現している。	他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考えなどを表現しようとしている。言語やその情景にある文化に対する関心を持って、自律的、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習状況 ・ 確認テスト ・ 定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習状況 ・ 確認テスト ・ 定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習状況 ・ 確認テスト ・ 定期考査

法	・発問への対応	・発問への対応 ・オンライン英会話	・発問への対応 ・オンライン英会話
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に5段階の評価にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間		Lesson1< Grove > 動名詞 分詞 < Dual Scope > オンライン英会話	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○ ○	I：国や地域で特色がある朝食や食文化・食習慣に関連した内容の英文を理解し、表現力を養う。 II：Listening、dictation で内容が把握できているか。 III：課題について、またオンライン英会話で自分の考えを伝える。	学習態度 確認テスト 発問への反応 課題
1 学期 期末		Lesson2< Grove > Lesson3< Grove > 分詞 比較 < Dual Scope > オンライン英会話	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	I：ストリートダンスとその上達のポイントに関連した内容の英文を理解し、表現力を養う。 II：Listening、dictation で内容が把握できているか。 III：課題について、またオンライン英会話で自分の考えを伝える。	学習態度 確認テスト 発問への反応 課題
2 学期 中間		Lesson4< Grove > 比較 関係詞 < Dual Scope > オンライン英会話	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○ ○	I：動物の役割や課題と組みに関連した内容の英文を理解し、表現力を養う。 II：Listening、dictation で内容が把握できているか。 III：課題について、またオンライン英会話で自分の考えを伝える。	学習態度 確認テスト 発問への反応 課題
2 学期 期末		Lesson5< Grove > Lesson6< Grove > 関係詞< Dual Scope > オンライン英会話	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○ ○	I：紙の生産と環境への対応に関連した内容の英文を理解し、表現力を養う。 II：Listening、dictation で内容が把握できているか。 III：課題について、またオンライン英会話で自分の考えを伝える。	学習態度 確認テスト 発問への反応 課題

2024年度 相愛高等学校 2年 普通科 専攻選択コース シラバス

教科	外国語 (英語)	科目	ブラッシュアップ English	単位数	1	選択等	必修
教科書	なし						
副教材等	DUAL SCOPE English Grammar in 22 Stages 新訂版 (数研出版) チャート式 DUAL SCOPE 総合英語 新訂版 (数研出版)						

1 学習の到達目標

基礎となる英文法の理解を深めるとともに英語を通して、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。他国の文化・歴史に触れることで視野を広げる。情報や考えなどを的確に理解したり、適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。英検の目標級に合格する。

2 担当者からのメッセージ (学習方法等)

基礎的な語彙力と文法力を高めて、読む・聞く・書く・話すことでの4技能を高められるように取り組みましょう。積極的に英語検定の受験をして、より高い受験級の合格を目指しましょう。

3 学習評価 (評価基準と評価方法)

観点	I : 知識・技能 (技術)	II : 思考・判断・表現	III : 主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	外国語の4技能(話す、書く、聞く、読む)について、実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識・技能を身に付けている。外国語の学習を通じて、言語の働きや役割などを理解している。	場面、目的、状況に応じて、日常的话题から時事問題や社会問題まで幅広い話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝え合ったりしている。聞いたり読んだりしたことなどを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりしている。	他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。言語やその背景にある文化に対する関心を持って、自律的、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・確認テスト ・発問への対応 ・英語検定の結果 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・確認テスト ・発問への対応 ・英語検定の結果 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・確認テスト ・発問への対応 ・英語検定の結果

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間	Lesson8 動詞の態(2) Lesson9 不定詞(1)	態 不定詞	○ ○	○ ○	○ ○	a:第4文型と第5文型の受動態を書いたり話したりできる。 b:that節やto不定詞を用いた受動態を書きかえたり話したりできる。 c:不定詞の基本的用法を用いて書いたり話したりできる。	・学習状況 ・確認テスト ・発問への対応 ・英語検定の結果
1 学期 期末	Lesson10 不定詞(2) Lesson11 不定詞(3)	不定詞	○ ○	○ ○	○ ○	a:不定詞の意味上の主語や原形不定詞の用法を理解し、書いたり話したりできる。 b:完了不定詞を理解し、書いたり話したりできる。 c:不定詞の受動態、進行形を理解し、書いたり話したりできる。	・学習状況 ・確認テスト ・発問への対応 ・英語検定の結果
2 学期 中間	英検対策 Lesson12 動名詞(1)	動名詞 熟語	○ ○	○ ○	○ ○	a:動名詞の基本的用法を用いて書いたり話したりできる。 b:動名詞の意味上の主語、完了動名詞、動名詞の態に注意して書いたり話したりできる。 c:英検に出題される熟語や単語を理解できる。	・学習状況 ・確認テスト ・発問への対応 ・英語検定の結果
2 学期 期末	Lesson13 動名詞(2) Lesson14 分詞(1)	動名詞 分詞	○ ○	○ ○	○ ○	a:動名詞だけを目的語にとる動詞、不定詞だけを目的語にとる動詞、動名詞と不定詞の両方を目的語にとる動詞に注意して書いたり話したりできる。 b:分詞の形容詞的用法、補語になる用法に注意して書いたり話したりできる。	・学習状況 ・確認テスト ・発問への対応 ・英語検定の結果
3 学期	Lesson15 分詞(2)	分詞	○	○	○	a:分詞構文に注意して書いたり話したりできる。 b:完了形の分詞構文に注意して書いたり話したりできる。	・学習状況 ・確認テスト ・発問への対応 ・英語検定の結果

2024年度 相愛高等学校 2年 普通科 専攻選択コース シラバス

教科	外国語（英語）	科目	英語コミュニケーションⅡ	単位数	5	選択等	必修
教科書	Grove English Communication II（文英堂）						
副教材等	Grove English Communication II FILL-IN NOTEBOOK 授業ノート（文英堂） Grove English Communication II ワークブック（文英堂） 英単語ターゲット 1400（旺文社） 即戦ゼミ 大学入試ベストポイント英語頻出問題 740（桐原書店） オンライン英会話 Chatty						

1 学習の到達目標

ア	日常的・社会的な話題について、多くの支援を活用すれば必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握したり概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。
イ	日常的・社会的な話題について多くの支援を活用すれば必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握したり概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。
ウ	日常的・社会的な話題について多くの支援を活用すれば、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けたり論理性に注意して話して伝え合ったりすることができる。
エ	日常的・社会的な話題について多くの支援を活用すれば情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができる。
オ	日常的・社会的な話題について多くの支援を活用すれば、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して書いて伝えることができる。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

<p>高校になると、文法用語もいろいろと学ぶことになります。新しい文法を学びつつ、そして単語や熟語の知識も使って、英文を聞いたり、読んだり、話したり、書いたりしていきましょう。</p>
--

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用する技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概念や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりする力を身に付けている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けている。
評 価 方 法	小テスト・定期考査	小テスト・定期考査 オンライン英会話	授業中の活動、発表 オンライン英会話 課題の提出 など

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に5段階の評価にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間		Lesson 1 Breakfast Around the World	○	○	○	<p>[題材・内容] ・様々な国や地域の典型的な朝食メニューについて読んで理解し、自分自身の経験や考えを表現する。 ・メニューをもとに、自分が注文する朝食について情報を伝えあう。</p> <p>[文型・文法事項] 主部と述部 / 「S+V」「S+V+C」「S+V+O」 / 「S+V+O1+O2」「S+V+O+C」 / 動名詞・to 不定詞・分詞 を理解して、聞いたり、読んだり、書いたり、話したりする。</p>	学習態度 MetaMoji 学習 単語テスト 単元テスト 定期考査 予習・復習課題 課題提出
		Lesson 2 What Makes You a Good Street Dancer?	○	○	○	<p>[題材・内容] ・ストリートダンスの特徴について読んで理解し、自分自身の経験や考えを表現する。 ・e スポーツについて情報をまとめ、自分自身の考えを伝えあう。</p> <p>[文型・文法事項] 完了形 / 進行形 / 完了進行形 を理解して、聞いたり、読んだり、書いたり、話したりする。</p>	学習態度 MetaMoji 学習 単語テスト 単元テスト 定期考査 予習・復習課題 課題提出
1 学期 期末		Lesson 3 Small Actions Can Be Powerful	○	○	○	<p>[題材・内容] ・音楽をきっかけに参画するボランティア活動について読んで理解し、情報や自分自身の経験や考えをまとめる。 ・要点を明確にしてボランティア活動の応募のメールを書いて伝える。</p> <p>[文型・文法事項] 助動詞 / 助動詞+完了形 / to 不定詞</p>	学習態度 MetaMoji 学習 単語テスト 単元テスト 定期考査 予習・復習課題 課題提出

		Lesson 4 Zoos --- Roles and Challenges	○	○	○	<p>を理解して、聞いたり、読んだり、書いたり、話したりする。</p> <p>[題材・内容] ・動物園の役割や活動について読んで理解し、情報や自分の経験や考えをまとめる。 ・動物園について情報や考えなどを活用しながら、自分自身の考えを伝えあう。</p> <p>[文型・文法事項] 受け身 / 目的語が 2 つの文章の受け身/ 助動詞や進行形を含む受け身 を理解して、聞いたり、読んだり、書いたり、話したりする。</p>	<p>学習態度 MetaMoji 学習 単語テスト 単元テスト 定期考査 予習・復習課題 課題提出 オンライン 英会話</p>
2 学 期 中 間		Lesson 5 Paper Can Change the Future	○	○	○	<p>[題材・内容] ・紙について、その歴史や環境問題との関係などを読んで理解し、自身の経験や考えを表現する。 ・和紙作りについての情報を活用しながら、自身の経験や考えを伝えあう。</p> <p>[文型・文法事項] 分詞の形容詞的用法 / S+V+(O+) O (=that 節) / S+V+(O+) O (疑問詞節など) / S+V+C (that 節) を理解して、聞いたり、読んだり、書いたり、話したりする。</p>	<p>学習態度 MetaMoji 学習 単語テスト 単元テスト 定期考査 予習・復習課題 Teams での 課題提出</p>
		Lesson 6 Our Advanced Network Society	○	○	○	<p>[題材・内容] ・情報伝達のためのデジタル機器が活用される社会について読んで理解し、自分自身の経験や考えを表現する。 ・AI が活用される未来の世界についての情報を活用しながら自分自身の考えを伝えあう。</p> <p>[文型・文法事項] S+V+O+ to 不定詞 / S+V+O+C(=分</p>	<p>学習態度 MetaMoji 学習 単語テスト 単元テスト 定期考査 予習・復習課題 Teams での 課題提出</p>

					詞)S+V+O+C(= 原形不定詞) / S+V(=seem, appear 等)+ to 不定詞 を理解して、聞いたり、読んだり、書いたり、話したりする。	オンライン英会話
2 学 期 期 末	Lesson 7 Connecting with People	○	○	○	[題材・内容] ・人と人とつながり合うことについての重要性について読んで理解し、自身の経験や考えをまとめて表現する。 ・友人同士の SNS 上のやりとりを参考に、メッセージを伝えあう。 [文型・文法事項] as～as / not as～as / 関係代名詞 / 関係代名詞の非制限用法 / 前置詞+関係代名詞 を理解して、聞いたり、読んだり、書いたり、話したりする。	学習態度 MetaMoji 学習 単語テスト 単元テスト 定期考査 予習・復習課題 Teams での 課題提出
	Lesson 8 Practice Makes Perfect: A Japanese Maker's World Victory	○	○	○	[題材・内容] ・あるパン職人が成し遂げた努力と結果について読み、自分自身の経験や考えをまとめて表現する。 ・伝える内容を整理し、要点や意図を明確にしながらか自分自身の経験や考えを伝えあう。 [文型・文法事項] 関係副詞 / 分詞構文 / 関係副詞の非制限用法 を理解して、聞いたり、読んだり、書いたり、話したりする。	学習態度 MetaMoji 学習 単語テスト 単元テスト 定期考査 予習・復習課題 Teams での 課題提出 オンライン英会話
3 学 期	Lesson 9 The World Without Honeybees	○	○	○	[題材・内容] ・身近な昆虫の1つであるミツバチが人間の生活にどのように関係しているのかを読み、自分自身の経験や考えをまとめて表現する。 [文型・文法事項] 仮定法過去 / 仮定法過去完了 / if のない仮定法 / 仮定法を含む表現 を理解して、聞いたり、読んだり、書いたり、話	学習態度 MetaMoji 学習 単語テスト 単元テスト 定期考査 予習・復習課題 Teams での 課題提出

		Lesson 10 The Forth Bridge: An Iconic Landmark in Scotland	○	○	○	<p>したりする。</p> <p>[題材・内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スコットランドのフォース橋について読んで理解し、自分自身の経験や考えをまとめて表現する。 ・時刻表と路線図の情報をもとに、自分たちの計画について伝えあう。 <p>[文型・文法事項]</p> <p>強調構文 / 省略 / 同格の that / 付帯状況の with を理解して、聞いたり、読んだり、書いたり、話したりする。</p>	<p>学習態度</p> <p>MetaMoji 学習</p> <p>単語テスト</p> <p>単元テスト</p> <p>定期考査</p> <p>予習・復習課題</p> <p>Teams での課題提出</p> <p>オンライン英会話</p>
--	--	---	---	---	---	---	---

2024 年度 相愛高等学校 2 年 普通科 特進コース シラバス

教科	外国語（英語）	科目	英語コミュニケーションⅡ	単位数	5	選択等	必修
教科書	New Edition Grove English Communication II（文英堂）						
副教材等	英単語ターゲット 1900（旺文社） チャート式 基礎からの新総合英語（数研出版） Next Stage 英文法・語法問題 4th edition（桐原書店）						

1 学習の到達目標

継続的に小テストを実施することにより短期的な目標をもち、それを積み重ねていくことで英語学習をさらに習慣化していきます。また、既習事項を確認しながら基本事項をしっかりとおさえ、長文読解・英文法などを総合的に学習します。説明、評論、物語、随筆などあらゆる形態の文章を読みすすめることで、英文に慣れ大意を理解できること、また速読したり精読したりするなど目的に応じた読み方ができるようになることを目指します。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

小さな学習を 1 つ 1 つ積み重ねていくと、1 年後には想像を超える結果となって皆さんに訪れます。単語・熟語・構文などコツコツと学習していきましょう。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	Ⅰ：知識・技能（技術）	Ⅱ：思考・判断・表現	Ⅲ：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	外国語の 4 技能（話す、書く、聞く、読む）を実践すべく、その土台となる知識・技能を身に付けている。外国語の学習を通じて、言語の働きや役割などを理解している。	日常的な話題から時事問題や社会問題まで幅広い話題について、情報や考えなどを外国語での確に理解したり適切に伝え合ったりしている。聞いたり読んだりしたことなどを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現している。	言語やその背景にある文化に対する関心を持って、自律的、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・提出課題 ・学習状況 ・確認テスト ・定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼン、発表 ・提出課題 ・確認テスト ・定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼン、発表 ・オンライン英会話 ・発問への対応 ・課題への取り組み、積極性

上記に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間		1) Breakfast Around the World 2) What Makes You a Good Street Dancer? 模試対策 英語検定対策	○	○	○	[題材・内容] 「世界の朝食」 「ストリートダンスがうまくなるには」 ・本文の大意を理解し設問に答える。 ・与えられたテーマに関する内容を発表・共有する。 ・文法事項を理解し発展問題にも対応できるようにする。 ・相手の意見を理解し、自分の意見を英語で積極的に相手に伝える。 [文型・文法事項] ・文型「S+V」「S+V+C」「S+V+O」「S+V+O1+O2」「S+V+O+C」 ・動名詞 ・完了形、進行形、完了進行形	学習態度 MetaMoji 学習 単語テスト 単元テスト 中間考査
1 学期 期末		3) Volunteering and Music Bring Us Together 4) Zoos – Roles and Challenges 5) Paper Can Change the Future オンライン英会話 模試対策	○	○	○	[題材・内容] 「ボランティアと音楽でつながる」 「動物園の役割」 「紙の可能性」 ・本文の大意を理解し設問に答える。 ・与えられたテーマに関する内容を発表・共有する。 ・文法事項を理解し発展問題にも対応できるようにする。 ・相手の意見を理解し、自分の意見を英語で積極的に相手に伝える。 [文型・文法事項] ・助動詞、助動詞+完了形、不定詞の用法 ・受け身、助動詞を含む受け身、進行形	学習態度 MetaMoji 学習 単語テスト 単元テスト 期末考査 オンライン英会話

					<p>の受け身</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分詞の形容詞的用法 		
2 学 期 中 間		<p>6) Our Advanced Network Society</p> <p>7) Connecting with People</p> <p>英検対策</p> <p>オンライン英会話</p>	○	○	○	<p>[題材・内容]</p> <p>「高度なネットワーク社会へ」</p> <p>「人とのつながり」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本文の大意を理解し設問に答える。 ・与えられたテーマに関する内容を発表・共有する。 ・文法事項を理解し発展問題にも対応できるようにする。 ・相手の意見を理解し、自分の意見を英語で積極的に相手に伝える。 <p>[文型・文法事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・S+V+O+ to 不定詞、S+V+O+C ・比較 ・関係代名詞、関係代名詞の非制限的用法、前置詞+関係代名詞 	<p>学習態度</p> <p>MetaMoji 学習</p> <p>単語テスト</p> <p>単元テスト</p> <p>中間考査</p> <p>オンライン英会話</p>
2 学 期 期 末		<p>8) Practice Makes Perfect: A Japanese Baker's World Victory</p> <p>9) The World Without Honeybees</p> <p>オンライン英会話</p> <p>模試対策</p>	○	○	○	<p>[題材・内容]</p> <p>「あきらめずに挑戦し続ける」</p> <p>「ミツバチのいない世界」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本文の大意を理解し設問に答える。 ・与えられたテーマに関する内容を発表・共有する。 ・文法事項を理解し発展問題にも対応できるようにする。 ・相手の意見を理解し、自分の意見を英語で積極的に相手に伝える。 <p>[文型・文法事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係副詞 ・分詞構文 ・仮定法過去、仮定法過去完了、仮定法を含む表現 	<p>学習態度</p> <p>MetaMoji 学習</p> <p>単語テスト</p> <p>単元テスト</p> <p>期末考査</p> <p>オンライン英会話</p>
3					<p>[題材・内容]</p> <p>「スコットランドのシンボル：フォース</p>		

学 期		<p>10) The Forth Bridge: An Iconic Landmark in Scotland</p> <p>オンライン英会話 模試対策 英語検定対策</p>	○	○	○	<p>橋」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本文の大意を理解し設問に答える。 ・ 与えられたテーマに関する内容を発表・共有する。 ・ 文法事項を理解し発展問題にも対応できるようにする。 ・ 相手の意見を理解し、自分の意見を英語で積極的に相手に伝える。 <p>[文型・文法事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 倒置 ・ 省略 ・ 同格の that ・ 付帯状況の with 	<p>学習態度 MetaMoji 学習 単語テスト 単元テスト 学年末考査 オンライン英会話</p>
--------	--	---	---	---	---	--	--

2024年度 相愛高等学校 2年 普通科 特進コース シラバス

教科	外国語（英語）	科目	論理・表現Ⅱ	単位数	3	選択等	必修
教科書	EARTHRISE English Logic and Expression II Standard（数研出版）						
副教材等	CLOVER 英文法・語法ランダム演習（数研出版）						
	Listening Laboratory Basic α（数研出版）						
	Listening Laboratory Basic β（数研出版）						

1 学習の到達目標

<p>(1) 話すこと [やり取り]</p> <p>ア 日常的话题について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを伝え合ったり、やり取りを通して必要な情報を得たりすることができるようにする。</p> <p>イ 日常的话题や社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、ディベートやディスカッションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して伝え合うことができるようにする。</p> <p>(2) 話すこと [発表]</p> <p>ア 日常的话题について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができるようにする。</p> <p>イ 日常的话题や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、スピーチやプレゼンテーションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができるようにする。</p> <p>(3) 書くこと</p> <p>ア 日常的话题について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようにする。</p> <p>イ 日常的话题や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようにする。</p> <p>(4) 聞くこと</p> <p>毎時間にリスニング用副教材を用いて、基礎的なリスニング力を修得する。</p>

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

<p>積極的にスピーチ、プレゼンテーションディベート、ディスカッションを英語でするためには、まずは文法力や語彙力の修得により、正しい英文を発信できるかが大切です。文法事項や語彙を確認しながら、教科書を勉強していきましょう。</p>

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	習得すべき知識や重要な概念等を理解している。それらを既存の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、概念等として理解したり、技能を習得したりしている。	知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けている。	知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組の中で、自らの学習を調整しようとしている。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 提出課題 学習状況 確認テスト 定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ディスカッション、発表 提出課題 確認テスト 定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ディスカッション、発表 発問への対応 課題への取り組み、積極性
上記に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間		Part 1 : Basic Expressions				[題材・内容] ・さまざまな時を表す ・可能・義務・必要などを表す ・「～される」を表す ・「～すること」などを表す (to do / doing) [文型・文法事項] 現在 / 過去 / 現在・過去における完了・ 継続・経験 / 未来 can / should / would / have to / must / should have+過去分詞 「Sは～される」を表す文の基本的な形 / 「～される」を表す文のいろいろな形 / It is said that... to do(不定詞)の名詞的な用法, 副詞的な	学習態度 MetaMoji 学習 単語テスト 単元テスト 中間考査
		Lesson 1 How interesting Japanese Culture is!	○	○	○		
		Lesson 2 Wonderful places to visit in Japan	○	○	○		
		Lesson 3 Precious water for all	○	○	○		

		Lesson 4 What has happened recently?	○	○	○	用法 / 主語になる doing(動名詞), 前置詞の目的語になる doing / 「～することを (...する)」 という場合の doing と to do / 疑問詞+to do	
1 学 期 期 末		Lesson 5 I'm into music and movies!	○	○	○	[題材・内容] ・ doing / done を使って説明する ・ 人・物・時や場所などについて説明する ・ 比較を表す ・ 仮定を表す	学習態度 MetaMoji 学習 単語テスト 単元テスト 期末考査
		Lesson 6 Where do you usually buy clothes?	○	○	○	[文型・文法事項] 〈名詞+doing / done(分詞)〜〉 / 〈doing / done+名詞〉 / Doing... / Having done... / S+V+O+doing	
		Lesson 7 What kind of books do you like best?	○	○	○	who / which / why / 〈人〉 や 〈物〉 について説明を付け足す / wherever SV / whenever SV / 〈however+形容詞/副詞〉	
		Lesson 8 Inventions that changed the way we live	○	○	○	「AはBより...」, 「Aが最も...」を表す / A...比較級+than any other B / like ~ better than... / more and more... 「もし(今)〜なら...」, 「もし(あのとき)〜だったなら...」を表す / I wish+S+過去形 / If it were not for...	
2 学 期 中 間		Part 2 : Functional Expressions				[題材・内容] ・ 感謝する/謝罪する ・ 心配を述べる/励ます/感想を述べる ・ 提案する/勧誘する/好みを述べる ・ 助言する/忠告する	学習態度 MetaMoji 学習 単語テスト 単元テスト 中間考査
		Lesson 1 Can you come to our party?	○	○	○	[文型・文法事項] Thank you for... / It's very kind of you to... / I'm sorry (that).../My apologies for...	
		Lesson 2 I'm sure you can make it!	○	○	○	I'm worried about... / (I'm sure) you can make it! / I'll keep my fingers crossed	
		Lesson 3	○	○	○	(for you). / You did a great job! / I felt	

		How about trying this food? Lesson 4 Tips for staying healthy	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	[thought]... / I'm sure you... How about doing...? / Why don't we...? / prefer ... to ~ / Why don't you...? / I suggest... I think you should... / It would be a good idea to... / You ought to do... / I recommend...	
2 学 期 期 末		Lesson 5 I'm taking part in some volunteer activities tomorrow. Lesson 6 Where would you like to live in the future? Lesson 7 Which candidate is the right person?	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	[題材・内容] ・ 依頼する ・ 賛成する／反対する ・ 意見を求める／意見を述べる [文型・文法事項] Would you mind...? / Can I ask you a favor? / Can you...? / I was wondering if I could... / I would appreciate it if you could... I agree with... / I'm afraid I don't agree with you. / No doubt about that. / I'm against... / It is true ~, but... / I'm opposed to... What do you think of...? / as far as I am concerned / in my opinion / I have no doubt that... / I would like to... / I strongly believe that...	学習態度 MetaMoji 学習 単語テスト 単元テスト 期末考査
3 学 期		Further Activity Further Activity パラグラフの構成 1 Further Activity パラグラフの構成 2 Further Activity パラグラフの構成 3	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	[題材・内容] ・ 例示・列挙 ・ 比較・対照 ・ 原因・結果 ・ 時間的順序・手順 [文型・文法事項] for example / such as / like in addition / also / moreover / as well as / not only ~ but also... / first / second just as A / like A / have ~ in common / similarly	学習態度 MetaMoji 学習 単語テスト 単元テスト 学年末考査

		Further Activity パラグラフの構成 4	○	○	○	<p>compared to / although / Some (people) say ~, however [but]... / on the other hand / while / in contrast</p> <p>because of / because / as / since / that's why / so / the [another] reason is... / therefore</p> <p>first of all / first / second / third / next / then / after that / finally / last / lastly</p>	
--	--	--------------------------------	---	---	---	---	--

※上記以外にも副教材としてのリスニング演習と、特進コースとして大学入試に対応するための基礎学力強化を、補充教材を用いて行う。

1 学 期	合 奏	基礎練習 音程や音色のチェック 合奏曲「虹」	○ ○	○ ○	○ ○	よりよい音色をだせるようにトレーニングする。 曲を通じて、ただ演奏するのではなく、音楽表現を豊かにし、自分が伝えたい音楽を演奏できるようにする。	学習状況 実技試験
2 学 期	合 奏	曲に応じて効果的な練習方法や時代背景を学ぶ 合奏曲未定	○ ○	○ ○	○ ○	音価について理解し、楽譜に忠実な演奏が出来るようになる。 フレージングについて学び、より高度な演奏が出来るようになる。	学習状況 実技試験
3 学 期	合 奏	楽曲をアナリーゼし、楽語について理解を深める 合奏曲未定	○ ○	○ ○	○ ○	1学期・2学期で学んだことを総合的に生かした演奏が出来るようになる。 アンサンブル力を高める。	学習状況 実技試験